一部画像を加工・修正している箇所があります。



# 帯広市防犯協会西帯広ニュータウン支部（北海道）

## 活動事例発表

帯広市防犯協会
西帯広ニュータウン支部

ただいまご紹介をいただきました、帯広市防犯協会　西帯広ニュータウン支部の新津と申します。

本日は、私共の防犯活動について、ご報告させていただく機会を設けていただき、心より、感謝申し上げます。

また、普段から、私共の活動をご支援下さっている北海道警察の皆様、帯広警察署の皆様、お礼申し上げます。

それでは、僭越ですが、早速、私共の支部活動を、ご報告させて頂きます。

## 活動地域

- 帯広市は、北海道の東部、十勝平野の中心に位置する人口約16万人の街で、十勝平野を背景とした農業を基幹産業としており、農作物の集散地として発展してきました。
- 私たちが活動する西帯広ニュータウン地区（人口約8，000人、3，400世帯）は帯広市の西部に位置し、大型商業施設等が立地することから若者世帯が多く移り住む傾向があり、高齢化と人口減少が進む帯広市のなかでも比較的栄えているエリアとなっています。

**活動地域**

私たちの活動地域の帯広市は、北海道の東部、十勝平野の中心に位置する人口約 16 万人の都市でございます、基幹産業は農業でございまして、農業集散地として発展してきました。

私たちが活動する西帯広ニュータウン地区は、帯広市の西部に位置する住宅団地の中にあります。大型商業施設等が立地することから若者世帯が多く移り住んでおり、高齢化と人口減少が進む帯広市のなかでも比較的栄えているエリアとなっています。

## 団体の概要

名　称　帯広市防犯協会西帯広ニュータウン支部
設　立　昭和63年5月
構　成　西帯広ニュータウン連合町内会に加盟する
　　町内会の防犯委員及び推薦された委員
活動区域
　　西帯広ニュータウン団地内
　　約3，400世帯，約8，000人
　　連合町内会　加　　入　　19町内会
　　　　未加入　　4町内会

**団体の概要**

団体の概要でございますが、私共、帯広市防犯協会西帯広ニュータウン支部は、西帯広ニュータウン団地造成に伴い急激に人口が増加したため、昭和 63 年５月に帯広市防犯協会西帯広支部から分離して設立されました。

運営は、西帯広ニュウータウン連合町内会に加盟する、町内会の防犯委員及び各町内会長より推薦された委員で構成されております。

現在 40 人程所属しています。

当支部の活動する西帯広ニュータウン地区は、地区内に大型商業施設が立地し、教育機関は、小学校２校、中学校１校、高校が１校あります。

ニュータウンという名称が付いているので、新しい団地のような印象を持たれるかと思いますが、実は団地造成から、既に４０年以上経過しています。しかし、帯広市の人口減少は緩やかに進んでいますが、徐々に若い世帯が移り住むなど、世帯全体でみれば高齢化が進んでいますが、空き家が少なく、帯広市の中では比較的、栄えているエリアになります。とはいえ、少子化は避けられず、学校の児童生徒数は、大幅に減っています。

現在世帯数は約 3,400 世帯、人口は約 8,000 人です。

（市役所展望室から西帯広ニュータウン地区）

（西帯広ニュータウン地区中心部）

（西帯広ニュータウン地区全体図）

青色は青パトの巡回路線図でございます。

教育機関の配置

西帯公園の位置

都市計画道路の位置

路線型商業地域の位置

# 活動内容

方　針

地域住民による明るく住みよいまちづくりを目指す。

①青少年の犯罪・事故防止のための巡視及び啓蒙活動の実施

②危険個所に防犯のぼり旗の設置

③青色防犯パトロールの実施

④地域住民を対象にした防犯講演会の実施

⑤広報啓発活動の実施

**活動内容**

活動内容でございますが、地域住民による明るく住みよいまちづくりを目指すことを方針としまして、次のような活動を行っています。

・青少年の犯罪・事故防止のための巡視及び啓蒙活動

・危険個所に防犯啓蒙のぼりの設置

・青色回転灯付き車両（青パト）によるパトロールの実施

・ながらパトロールの実施

・西帯広ニュータウン地区住民を対象にした防犯講演会の実施

・広報啓発活動の実施を行っております。

①青色防犯パトロール

②徒歩による夜間巡視

③町内会単位での防犯診断

④ながら見守り活動の推進

⑤町内会だよりによる防犯情報の提供

具体的には

① 青色回転灯付き車両による地域巡回
② 徒歩による夜間巡視
③ 町内会単位での防犯診断
④ ながら見守り隊による巡視
⑤ 町内会だよりによる防犯情報の提供

| 青色回転灯付き車両によるパトロール実施方法 | | | |
|---|---|---|---|
| 曜日 | 時間帯 | 実施個所 | 担当 |
| 月曜日 | 14:30から16:00 | 森の里小学校及び開西小学校通学路他 | 長屋副支部長<br>伊藤副支部長 |
| 火曜日 | 14:30から16:00 | 森の里小学校及び開西小学校通学路他 | 桑田会計 |
| 水曜日 | 14:30から16:00 | 森の里小学校及び開西小学校通学路他 | 本田監事 |
| 木曜日 | 14:30から16:00 | 森の里小学校及び開西小学校通学路他 | 池田支部長<br>三津原監事 |
| 金曜日 | 14:30から16:00 | 森の里小学校及び開西小学校通学路他 | 新津庶務 |
| 春の地域安全運動期間 | | | |
| | 5月11日～5月20日 | 西帯広ニュータウン支部区域 | |
| 秋の地域安全運動期間 | | | |
| | 10月11日～10月20日 | 西帯広ニュータウン支部区域 | |
| 歳末における地域安全運動期間 | | | |
| | 12月15日～12月31日 | 西帯広ニュータウン支部区域 | |

**青パトによる巡視**

当地区は、昭和 55 年に帯広市が策定しました緑のマスタープランに基づき、都市計画道路と西帯広近隣公園に樹木が多数植林され計画的に緑地化されましたが、造成されたときは、見通しが良く快適な環境でした、しかしながら、10 年を経過した頃から、樹木の生長とともに見通しが悪くなり、死角となるような危険個所が数多く点在するようになりました。

特に西帯広近隣公園の周辺は、不審者の出没が確認されるようになりました。

また、この公園に開西小学校、森の里小学校の通学路が隣接しておりますので、下校時間の 14 時～ 17 時の時間帯に、巡回見守り活動を実施しています。

基本的に、曜日毎に当番を決め、学校開校日に、決められたルートで巡回しています。

コロナ禍のときに、「人との接触を避けることが必要」との政府決定で、青パト以外の例年実施していた事業は、中止を余儀なくされました。

これにより支部活動の低下が懸念されため、活動を再検討し、１人で活動できる青パトを増車し、活動を維持強化させることにしました。

支部の青パト登録車は、コロナ禍以前の５台から、３台増やして、現在は８台となっています。

これにより、連合町内会には、19 町内会が加盟しておりますので、実質的に２町内会に１台の割合の青パト配置となりました。

コロナ禍以後、８台の青パトを中心に、防犯パトロールを実施しております。

また、春と秋の「全国地域安全運動」「歳末における地域安全運動」の実施期間中は、巡視回数を増やして、活動を強化しています。

青パト出発式（夏季）

青パト出発式（冬季）

夏季と冬季に青パト出発式を行っています。

（西帯広公園内通路）

巡回見守り活動の状況でございます。

（都市計画道路（緑園通り））

（帯広川河川公園遊歩道）

（緑園中学校及び森の里小学校通学路）

（西帯広公園専用駐車場）

この場所は不審な車両を見かけることがありますので、そのときはドライブレコーダー録画しています。

（開西小学校通学路）

# 防犯診断

- 診断項目

住宅は、
玄関ドアの二重ロックの有無
防犯ガラスや防犯フイルムの使用の有無
屋外センサーライトの設置の有無
屋外防犯カメラの設置の有無
窓の施錠状況の確認、補助錠の有無
自動車は、
施錠と貴重品の有無
自転車は、
施錠の有無
防犯登録の有無

**防犯診断**

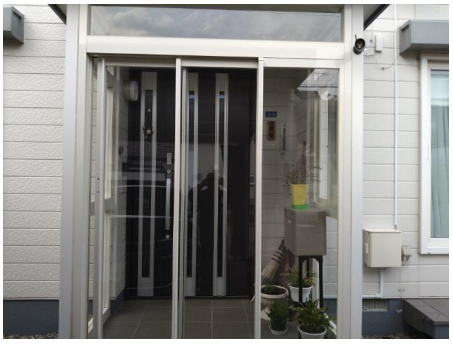
次に、防犯診断の活動状況を報告いたします。
実施時期は、「秋の全国地域安全運動」期間中に、帯広警察署のご協力のもと、実施しております。
診断項目は、

住宅は、
・玄関ドアの二重ロックキーの有無
・防犯ガラスや防犯フィルムの使用の有無
・屋外センサーライトの設置の有無
・屋外監視カメラの設置の有無
・窓の施錠状況の確認、補助キーの有無

自動車は、 各家庭で1台以上所有していますので
・自動車の施錠と貴重品の有無

自転車は
・施錠と二重キーの有無、
・防犯登録の有無
以上のことを確認しています。

屋外監視カメラ　　屋外センサーライト



（屋外監視カメラ・屋外センサーライト）

特に屋外監視カメラと屋外センサーライトについては、効果を説明し、設置のお願いをしております。

私は自宅に監視カメラをつけて録画しておりますので、過去に近所で事件が起きたとき、データを警察に提供したことがありました。

# 夜間巡視

**実施時期**
**①区域内に所在する高校の文化祭開催日（年1回）**

**②小中学校の夏休み期間中（5回程度）**

**巡視箇所**
**西帯広公園及び児童公園（8カ所）**
**大型商業施設等**

**方　　法**
**午後8時から　1時間程度**
**徒歩による　参加者は20人程度**

**夜間巡視**

夜間巡視の実施時期は、近隣の高校文化祭開催日に年１回、小中学校の夏休み期間は５回程度実施しております。

巡視箇所の重点箇所は、危険性の高い公園と園内のトイレ、大型商業施設の駐車場とその周辺になります。

参加者は 20 人程で、２グループに分かれ、午後８時から１時間程度の巡視をしております。

近年は、夜間、公園で遊んでいる児童生徒の姿を見ることは少なくなりましたが、自転車や徒歩で通行している生徒がいますので、自転車のライト点灯の確認も含め、声掛けを行っています。

参加者が、生徒に声掛けをして挨拶をすることは、健全育成に欠かせないことと考えます。

# 夜間巡視（１）

**本屋･レンタルビデオ店**　　**大型商業施設**

（本屋・レンタルビデオ店・大型商業施設）

# 夜間巡視（２）

**西帯広公園**

（西帯広公園）

危険個所点検

①西帯広公園

②児童公園（8カ所）

③新緑通及び緑園通り

**危険個所点検**

次に、危険個所点検です。

年１回、西帯広公園、児童公園（８カ所）、新緑通、緑園通りを点検しております。

# のぼり旗

これは危険箇所ののぼり旗でございます。

のぼり旗の設置場所は、地区内の小中学校と連携し、死角となるような危険個所の把握に努め、「不審者注意」・「防犯パトルール中」・「車上ねらい注意」等の防犯のぼり旗を、危険個所（公園）と、効果が高い場所（道路）に設置しています。

また、構成町内会にも、旗を配布し、それぞれに設置してもらっています。

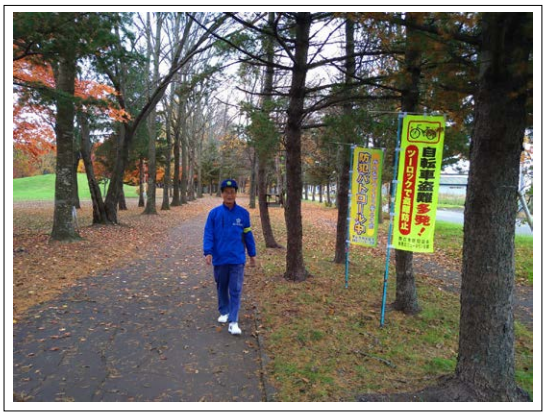
# ながら見守り活動

会員に「ながら見守り中」の腕章を配付し、各種町内会活動や日常生活で外出した機会に、ながら見守り活動を行っています。防犯腕章を付けて活動することで、犯罪抑止と町内会活動の見える化を図り、町内会非加入世帯へのアピールにも繋げています。

**ながら見守り活動**

令和元年７月に帯広警察署独自の取組みとしてスタートした、「ながら見守り活動」は、ワンタッチで装着できる腕章を使用することで犯罪抑止と町内会活動の見える化を図り、町内会非加入世帯へのアピールにも繋げています。

（ながら見守り中腕章）



（緑園通りでの見守り活動）

（西帯公園での見守り活動）

（新緑通での見守り活動）

# 広報啓発活動

警察署との緊密な連携の下、防犯情報の収集に努め、町内会だよりを活用し、地域住民への周知を図っています。

町内会だより
　各町内会に（年6回程度）配布を行い
　町内会の各班ごとに回覧

**広報啓発活動**

　北海道警察防犯アプリ「ほくとポリス」を活用した防犯情報の収集に努め、町内会だよりにて防犯情報を二次発信し地域住民への周知を図っています。

　各町内会に（年６回程度）配布を行い町内会の各班ごとに回覧しています。

# 活動頻度

（1）青色防犯パトロールによる地域巡回
（小学校登校日に毎日）
（2）徒歩による夜間巡視
（定期：年1回、不定期：年5回程度）
（3）町内会単位での防犯診断 （年1から2回）
（4）防犯のぼり旗の設置 （年1回）
（5）ながら見守り活動の推進 （月約15回程度）
（6）町内会だよりによる防犯情報の発信
（年6回程度）

**活動の頻度**

次に活動の頻度でございますが、青色パトロールカーによる地域巡回は、学校開校日は毎日。徒歩による夜間巡視は、定期は年１回、不定期に年５回程度。町内会単位での防犯診断は、年１回から２回。防犯のぼり旗の設置は、年１回。ながら見守り隊は、月に約 15 回程度。町内会だよりによる防犯情報の発信は、年６回程度行っております。

# 課題

①次世代を担うボランティア活動の人材確保

②増加する町内会非加入世帯を含めた地域全体での防犯意識の浸透

③地域住民に対する効果的な防犯情報の提供

課題としましては、

・次世代を担うボランティア活動の人材確保

・増加する町内会非加入世帯を含めた地域全体での防犯意識の浸透

・地域住民に対する効果的な防犯情報の提供

の３点がございます。

# 課題の解決に向けた取組方策

①連合町内会との連携強化による組織の強化

連合町内会との連携を強化し、単位町内会の防犯担当者が防犯ボランティア活動に参加する仕組みの構築、若者を積極的に支部組織に加入させて、組織の強化を図る。

②防犯活動の「見える化」による防犯意識の浸透

防犯のぼり旗の設置、ながら見守り隊活動の普及促進など、防犯活動の「見える化」を推進することにより、町内会非加入世帯を含めた地域全体の防犯意識の浸透を図っていきます。

課題の解決に向けた取り組みでございますが、

①連合町内会との連携強化による組織の強化

連合町内会との連携を強化し、単位町内会の防犯担当者が防犯ボランティア活動に参加する仕組みの構築、若者を積極的に支部組織に加入させて、組織の強化を図る。

②防犯活動の「見える化」による防犯意識の浸透

防犯のぼり旗の設置、ながら見守り隊活動の普及促進など、防犯活動の「見える化」を推進することにより、町内会非加入世帯を含めた地域全体の防犯意識の浸透を図っていきます。

③地域住民への防犯情報の提供

とくに、高齢者はテレビでの犯罪報道の内容を理解しづらいと感じていると思われるので、警察と連携して積極的に防犯情報の収集に努めるとともに、防犯診断の機会や町内会だよりの発行を通じて、地域住民にわかりやすく防犯情報を発信します。

③地域住民への防犯情報

とくに、高齢者はテレビでの犯罪報道の内容を理解しづらいと感じていると思われるますので、警察と連携して積極的に防犯情報の収集に努めるとともに、防犯診断の機会や町内会だよりの発行を通じて、地域住民にわかりやすく防犯情報を発信しています。

# 活動の効果

当地区は、新興住宅地と大型商業施設等が立ち並び犯罪の増加が懸念される地区でありますが、防犯診断及び防犯講演会等の実施により地域住民の自主防犯意識が高揚しております。

また、継続した防犯パトロールや見守り活動により、犯罪発生件数は減少傾向にあり、犯罪抑止に貢献していると思われます。

**活動の効果**

当地区は、新興住宅地と大型商業施設等が立ち並び犯罪の増加が懸念される地区でありますが、防犯診断及び防犯講演会等の実施により地域住民の自主防犯意識が高揚しております。

また、継続した防犯パトロールや見守り活動により、犯罪発生件数は減少傾向にあり、犯罪抑止に貢献していると思われます。

# 今後の活動

近年、パソコン、携帯電話へのサイバー犯罪も増加しています。

防犯協会がこれまで積み重ねてきた、地域の見守る力による犯罪抑止だけでは防止できない、新たな犯罪に地域社会は晒されている状況にあります。

北海道警察が作った、新たなツールの「ほくとポリス」は地域の安全を守る情報をリアルタイムに得られる、新たな警察の情報源であり、緊急時にどう生かせるか、幅広い取組みを検討していかなければならないと思っています。

私共の支部においても、ほくとポリスを活用したネットワークを整備したいと考えています。

**今後の活動**

近年、パソコン、携帯電話へのサイバー犯罪も増加し、デジタル空間犯罪が目立ってきています。

防犯協会がこれまで積み重ねてきた、地域の見守る力による犯罪抑止だけでは防止できない、新たな犯罪に地域社会は晒されている状況にあります。

北海道警察が作られた、新たなツールの「ほくとポリス」地域の安全を守る情報をリアルタイムに得られる、新たな警察の情報源であり、緊急時にどう生かせるか、幅広い取組みを検討していかなければならないと思っています。

私共の支部においても、ほくとポリスを活用したネットワークを整備したいと考えています。

最後になりますが、現代社会は犯罪の多様化と巧妙化に直面し、国内だけでなく、海外から犯罪を仕掛けられている、極めて厄介な時代となっています。

そのような中、第一線で、道民を犯罪から守る北海道警察のご尽力に、心より感謝申し上げます。

私も防犯協会の一員として、皆様方のご支援を仰ぎながら、地域の安心安全活動を途切れることなく守り続け、ちょっとした課題や犯罪予兆も見逃さない姿勢で臨んで参りますので、今後ともご指導・ご支援を頂けますようお願い申し上げまして、活動報告とさせていただきます。

ありがとうございました

## 講　評

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

ご発表ありがとうございます。すごく多様な活動をされていて素晴らしいな、というのが最初に伺いました感想でございます。

一点質問なんですけれども、課題の解決に向けた方策の中で、「連合町内会との連携を強化し、単位町内会の防犯担当者が防犯ボランティア活動に参加する仕組みの構築」、また「若者を積極的に支部組織に加入してもらって、組織の強化を図る」と取り組んでおられるということでしたが、もう少し具体的にどんなふうに参加する仕組みがあって、若い人たちにどういうふうに支部に入ってもらうのかがわかると、参加されている団体さんもすごく参考になるのではないかなと思うので、ぜひ教えていただければと思います。

**【発表者（新津氏）】**

あくまで町内会単位で、各町内会にお願いするということになります。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

どのぐらいの方々が入ってくれますか？皆さん結構協力的なのでしょうか？

**【発表者（新津氏）】**

全部で 19 町内会ございますので、その中での調整というか、お願いするしかないと思っております。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

なるほど。「若い人」というのは、30 代、40 代ぐらいですか？

**【発表者（新津氏）】**

だいたいそうですね、40 代からです。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

でも 40 代の人が入ってくれるのですか？

**【発表者（新津氏）】**

我々のところでは、40 代が若い人ですから。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

そうですか。こういうところでお話をすると、私が一番若手ですけど 60 代の方だったり、最高齢だと 98 歳でパトロールしていますという方が多いので、40 代の人が入るとかなりすごいことだなというふうに思います。

**【発表者（新津氏）】**

団地全体がうまく回っているものですから、次の世代の人たちも結構おられるんですよね。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

なるほど、わかりました。ありがとうございます。

# 湊防犯協会（青森県）

こんにちは。青森県の八戸市から来ました湊防犯会、会長の加賀と申します。よろしくお願いいたします。

私は平成 28 年に防犯会に入り、これまで子どもたちの見守り活動を中心に約 9 年間活動してきました。湊防犯会では、「ふるさとをグレット見守りパトロール」という名称で防犯パトロールをしています。「グレット」というのは、私たちの地域の方言である南部弁で、標準語に直すと「全部」、つまり「ぐるっと」という意味になります。

本日は、私たちと志を同じくする仲間がお集まりのことと思いますが、私たちの防犯活動を文字通り「ぐれっと」発表したいと思います。

まず初めに、青森県についてご紹介します。青森県は、人口は約 122 万人。県庁所在地の青森市や、津軽藩の城下町・弘前市などを有する津軽地方、そして私たちが暮らす八戸南部藩の城下町・八戸市などを有する南部地方に大別されます。ちなみに、住民の気質も津軽衆と南部衆、方言も津軽弁と南部弁で大きく異なります。

風土の特徴としては、太平洋、津軽海峡、日本海と三方を海に囲まれ、世界文化遺産の白神山地、八甲田山や岩木山、十和田湖、奥入瀬渓流など、海と山の幸に恵まれた自然豊かな県土を誇ります。また、2021 年には八戸の是川遺跡や青森市の三内丸山遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録され、話題となりました。県内には鄙びた温泉地なども多く、海外からの観光客の人気や知名度も上昇している状況にあります。

次に八戸市の場所についてですが、青森県の東部に位置し、岩手県に隣接しています。写真は八戸市内にあるウミネコの繁殖地で知られる蕪島と蕪島神社、芝生の海岸で知られる種差海岸で、いずれも三陸復興国立公園に指定されています。

次に、私たちが活動している八戸市についてご紹介します。八戸市は太平洋に面する人口約 21 万人の中核市で、岩手県北部も商圏に含む南部地方の中心都市です。JR 八戸駅は東北新幹線が全車両停車するターミナル駅で、旅客機が発着する三沢市の三沢空港までおよそ車で 30 分、八戸港から北海道の苫小牧港までカーフェリーで約 8 時間、東北自動車道や三陸自動車道が接続する交通の要衝です。

八戸市は、夏は日本一の山車祭りと言われる「三社大祭」、冬は国の重要無形民俗文化財の「えんぶり」、B 級グルメの「せんべい汁」、そして是川縄文遺跡から発掘され、平成 21 年に国宝に指定された「合掌土偶」などが有名です。縄文からの長い歴史をつむぎ、江戸時代からは八戸南部氏の城下町として栄え、近代以降は日本有数の水産都市、県内随一で東北でも有数の工業都市となっています。

私たちが暮らす八戸市の湊地区はこのあたりになります。岩手県に源を発する新井田川（の河口に位置し、目の前には八戸漁港と太平洋が広がります。

次に、湊防犯会の活動地域についてご紹介します。八戸市の湊地区は市内東部の沿岸に位置し、海に開けた坂の多い港町です。湊地区連合町内会に所属する 23 町内で構成され、地区の人口は約 1 万人、世帯数は約 5,100 世帯となっています。東北新幹線の八戸駅からは、JR 八戸線に乗り換えて 4 駅 15 分ほど進んだ陸奥湊駅が最寄り駅になります。

地区内には、水揚げ数量で全国第 10 位を誇る八戸漁港を有し、その他、湊小学校と青潮小学校、湊中学校、湊公民館、湊児童館、館鼻公園と市内を一望する「グレットタワーみなと」、「みなと白銀交番」などがあります。ちなみに左の写真は八戸の市街地を「グレット」全部見渡せる「グレットタワーみなと」、真ん中の写真はグレットタワーから見た「湊地区」、右の写真は同じくグレットタワーから見た八戸市の「中心市街地」になります。

# 湊防犯協会の活動地域②

【主な観光資源】

○ 湊日曜朝市（館鼻岸壁朝市）

・ 毎週３万人の来場者を誇る全国有数の朝市

・ ３月から12月の日曜日に開催

○ 陸奥湊駅前朝市

○ 日曜新鮮市

○ 湊山手通り朝市

地区内の主な観光資源としては、八戸漁港内の「館鼻岸壁」で開催され、毎週３万人の来場者を誇る全国有数の朝市「湊日曜朝市」通称「館鼻朝市」、そのほか通年の「陸奥湊駅前朝市」、「日曜新鮮市」、「湊山手通り朝市」があり、観光客や近隣の住民で賑わっています。

# 湊防犯協会の団体概要

○ 昭和22年発足で創立77年
○ 会員数14人（令和７年５月末現在）
○ 八戸地区連合防犯協会
（36地区）の一翼を担う

次に、「湊防犯協会の団体概要」についてご紹介します。湊防犯協会は、「昭和 22 年」に設立され、創立「77 年」という長い歴史を持つ団体で、私は 12 代目の会長になります。会員数は 14 人ですが、23 町内会から協力を得て、地域の防犯活動を担っております。なお、「八戸地区連合防犯協会」は、私たち湊防犯協会を含む 36 の地区防犯協会から構成され、県内でも特に防犯ボランティア活動が盛んな地域になっております。また、主に八戸地区交通安全協会湊支部と協力し、交通部門や防犯部門の垣根を越えた見守り活動を行っています。

それでは、さっそく、私たちの団体の活動について紹介していきたいと思います。

# 活動推進目標（令和７年度）

**１　春夏秋年末年始の安全安心まちづくり旬間活動の推進**

- ○　「防犯のぼり旗」と「防犯横断幕」の掲示、防犯活動

**２　防犯指導隊活動の充実**

- ○　グレット行こう安全作戦パトロールの推進
- ○　地域の諸行事における警戒活動の積極的実施
- ○　防犯指導隊員の増強、資質向上と意思疎通のための定例会開催

**３　地域防犯ニーズ活動の推進**

- ○　防犯連絡所研修座談会の開催、地域の安全・安心関係団体との連携活動の推進

**４　八戸地区連合防犯協会の活動への積極的参画**

- ○　推進大会・指導隊査閲式、街頭広報活動、特別警戒活動、会議、研修会、講演会等

「令和７年度の「湊防犯協会の活動推進目標」についてご紹介します。

内容はパワーポイントの画面に示したとおりですが、地域住民の要望に根ざした防犯活動を中心にしています。また、八戸地区連合防犯協会の活動にも積極的に参画し、他の地区の防犯協会と協力して大規模なショッピングモールの巡回に当たるなど、八戸市全域の安全安心まちづくりにも貢献しています。

# 【活動１】児童の登校見守り

○ 毎週火曜日と金曜日の午前７時から午前８時

○ 湊小・青潮小学校の通学路が対象

まず最初に、活動の１つ目「児童の登校見守り」について紹介します。

私たちは、毎週火曜日と金曜日に午前７時から午前８時までの間、通学路で児童の登校見守り活動を行っています。学校や交番と連携し、交差点や横断歩道に立ち、児童に声かけしながら、児童の犯罪被害の防止と交通事故の防止を兼ねて、児童の安全のために見守り活動を行っています。

## 【活動２】児童の下校見守り

○ 毎月１回、
30分から１時間程度
○ 湊小・青潮小学校
の通学路が対象

次に、活動の２つ目「児童の下校見守り」について紹介します。

私たちは毎月１回、小学校の下校時刻に合わせて 30 分から１時間程度、通学路で児童の下校見守り活動を行っています。湊地区は旧来から商店街や住宅街が立ち並び、坂道であることに加え、道幅が狭く見通しが悪い道路や交差点も多くあるため、私たちも注意深く見守り活動を行っています。

## 【活動３】湊防犯グレット行こう安全作戦パトロール

○ 万引き防止を主眼に店内巡回と情報交換を行っている（毎月１回）
○ スーパーマーケット１ヶ所、ドラッグストア２ヶ所、
コンビニエンスストア２ヶ所、大型家電量販店１ヶ所

次に、活動の３つ目「ふるさとをグレット見守りパトロール」についてご紹介します。

私たちは、みなと白銀交番と連携して、毎月１回、地区のスーパーマーケットなど主要な商業施設を網羅して巡回し、主に万引き防止活動を中心にしてパトロールし、店側と情報交換しています。以前は、少年による万引きが多かったのですが、現在は高齢者による万引きが多くを占めるようになったと聞いておりますので、それらを踏まえて巡回しております。地域を「グレット」全部巡回して、安全安心なまちづくりをするというコンセプトで、防犯活動を行っています。

## 【活動４】学区内パトロール

○ 小中学校が長期休業の際、児童の犯罪等被害防止のため、パトロールを行っている
○ 春休みは１回、夏休みは２回、冬休みは２回実施している
○ 湊小学校方面は２班、青潮小学校方面は１班の編制で、概ね１時間程度巡回している

次に、活動の４つ目「学区内パトロール」についてご紹介します。

小中学校が長期休業の際に、児童の犯罪等被害防止のため、パトロールを行っています。休みの期間の長短に合わせて、春休みは１回、夏休みは２回、冬休みは２回、パトロールを実施しています。学校の規模等に合わせて、湊小学校方面は２班編制、青潮小学校方面は１班編制で、概ね１時間程度巡回しています。

## 【活動５】学校行事等への参加と児童の保護

○ 不審者出没時の学校周辺のパトロール
○ 各小中学校の運動会会場及び周辺の警備
○ 湊小学校ポプラ祭り会場及び周辺の警備
○ 小学校の交通安全教室への出席
○ 新入学児童への安全な道路横断の指導

次に、活動の５つ目「学校行事等への参加と児童の保護」についてご紹介します。私たちは、みなと白銀交番や八戸警察署と連携して、不審者出没時に学校周辺のパトロールを実施しています。また、学校から依頼を受けて各小中学校の運動会会場及び周辺の警備、湊小学校ポプラ祭り会場及び周辺の警備、小学校の交通安全教室への出席、新入学児童への安全な道路横断の指導を行っています。写真は新入学児童への安全な道路横断の指導を行ったときのものです。

## 【活動６】祭礼及び八戸花火大会の会場警備

○ 八戸湊橋小唄まつり・大祐神社風鎮祭会場及び周辺警備（七夕祭り）
○ 八戸花火大会会場警備（館鼻漁港で開催）

次に、活動の６つ目「祭礼および花火大会の会場警備」についてご紹介します。

写真は、地区内のお祭りである、八戸湊橋小唄まつり、大祐神社風鎮祭の会場警備の様子です。また、地区内で最大規模のイベントである、八戸花火大会の会場警備については、八戸地区連合防犯協会から近隣の６地区の防犯協会と防犯指導隊の応援を得て、八戸警察署と連携して、雑踏警備にあたり防犯活動を行っています。

## 【活動７】旬間の広報活動

○ 春、夏、秋、年末年始の安全安心まちづくり旬間の期間に防犯横断幕と防犯のぼり旗を掲示
（横断幕は各小中学校のフェンス、のぼり旗は各防犯連絡所に掲示）

次に、活動の７つ目「旬間の広報活動」についてご紹介します。春、夏、秋、年末年始の「安全安心まちづくり旬間」の期間に各小中学校や児童館のフェンスに「防犯横断幕」各防犯連絡所に「防犯のぼり旗」を掲示し、旬間の周知を図り、防犯への機運を高めています。

## 【活動８】湊公民館まつりへの参加

○ 湊公民館まつり（10月）に参加し、湊防犯協会でブースを設け、活動を地域住民に広報している

次に、活動の８つ目「みなと公民館まつりへの参加」についてご紹介します。

八戸市内の公民館では、「公民館まつり」として、公民館講座の開催、地域住民の作品の展示、地域団体による手作り品の出店を行っています。私たちの地区にある湊公民館では、例年 10 月に「湊公民館まつり」が開催されますが、湊防犯協会でブースを設け、活動状況の写真、受賞した際の表彰状、年間の行事、制帽、夜行チョッキ、停止灯などを展示・広報し、活動への理解と協力を呼びかけています。

## 【活動９】危険箇所の改善

○ 市長との座談会で働きかけ、毎年のように小学生の人身交通事故が発生していた交差点の環境を改善
○ 防犯灯のLED化、カーブミラーの大型化、コーナーポールの設置
○ 以後２年間は事故の発生なし

次に、活動の９つ目「危険箇所の改善」についてご紹介します。地区内の通学路において、登下校時の児童が、毎年のように交通事故に遭う交差点がありました。見通しが悪く、カーブミラーも小型で、街灯も暗い状況であったため、市長が直接市民の意見を聞く座談会の場で働きかけ、「防犯灯のＬＥＤ化」、「カーブミラーの大型化」、「コーナーポールの設置」など改善を行いました。その後、令和５年以降、児童が被害に遭う交通事故は発生していません。

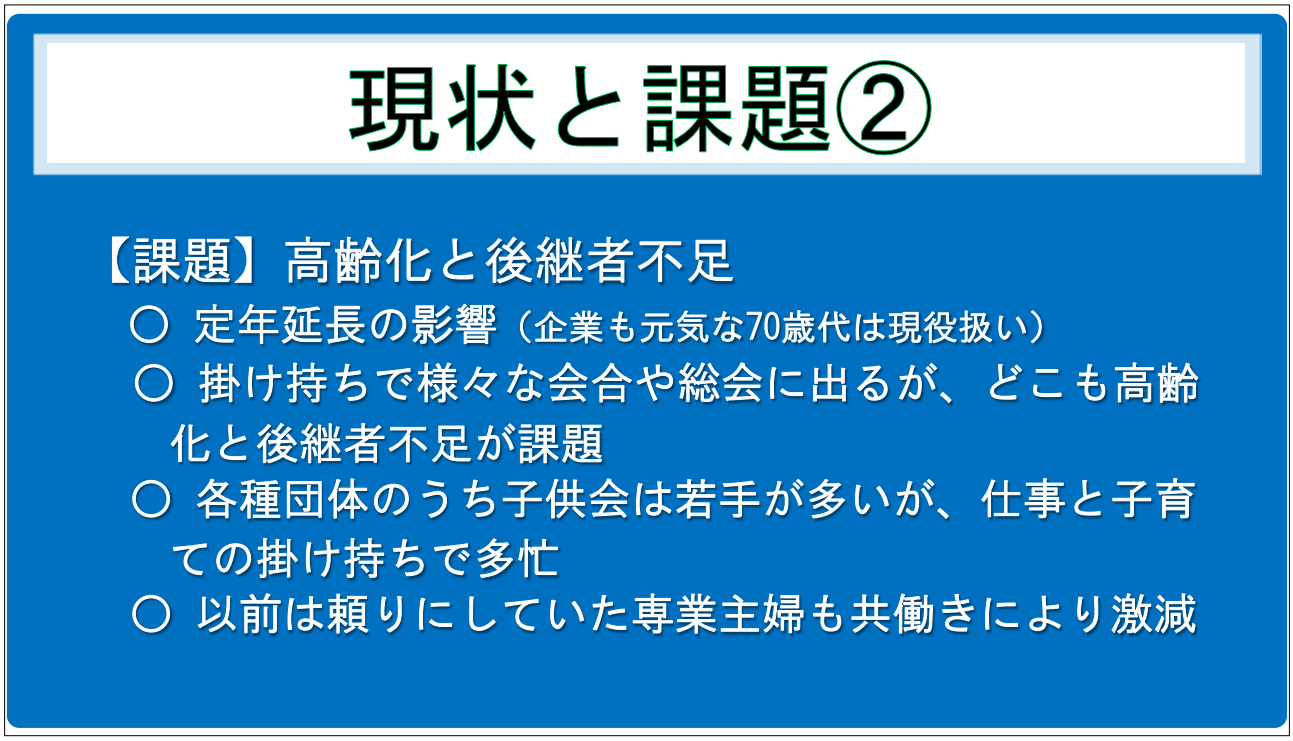
## 現状と課題①

【現状】活動のボーダレス化
○ 町内会長や民生委員などを兼務し多忙
○ 団体や組織を跨ぐ課題も多く、どこまでが防犯協会の活動になるのか、線引きは難しい
○ 湊地区連合町内自主防災会主催の夜間津波避難訓練時には誘導応援を実施した
○ 団体や組織の垣根を越えて、住民のために活動することを優先している

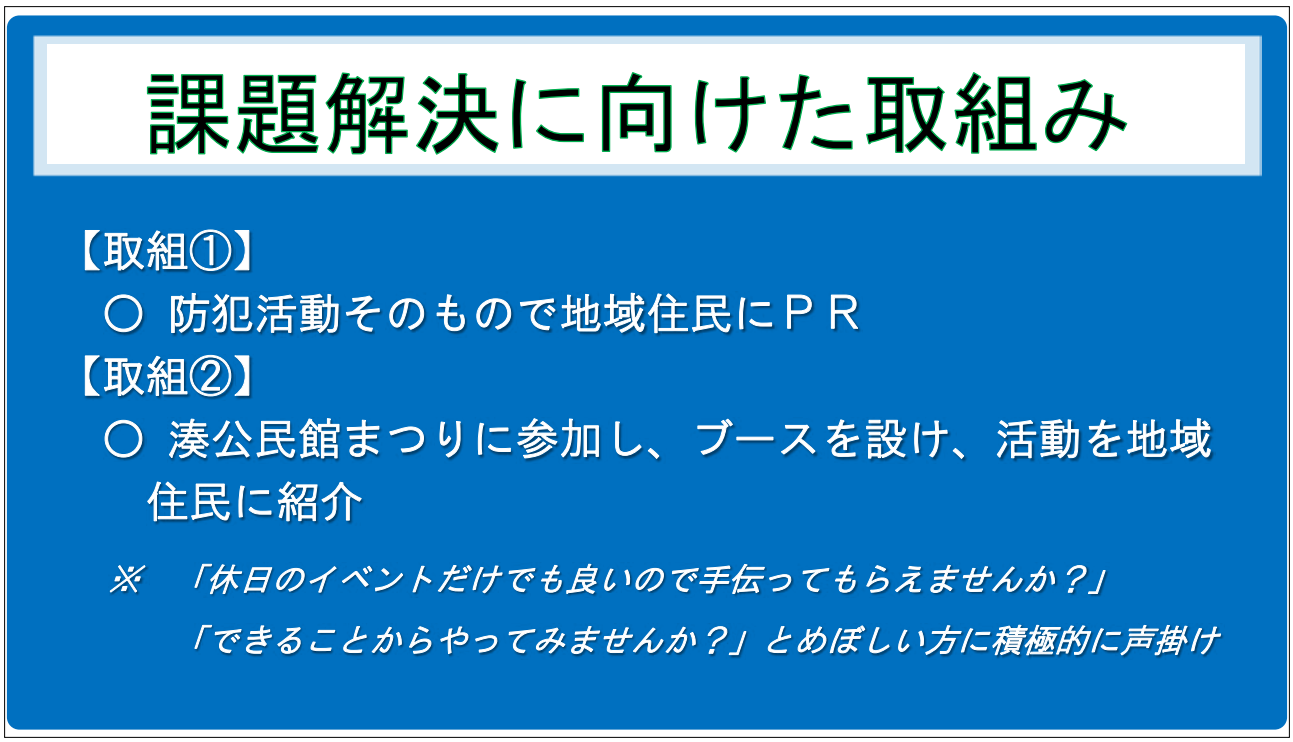
次に、現状と課題、「活動のボーダーレス化」についてお話しします。

防犯協会の役員は、私も含めて町会長や民生委員などを兼ねており、多忙を極めています。また、団体や組織を跨ぐ課題も多く、どこまでが防犯協会の活動になるのか、線引きは難しいものになって

います。一例を挙げると、私たちの地区は太平洋に面しており、地震による大津波では人的及び物的な被害の発生が繰り返されてきました。大津波発生時の避難は重要な課題ですが、湊地区連合町内自主防災会主催の夜間津波避難訓練時には、誘導応援を実施しました。団体や組織の垣根を越えて、住民の安全安心のために活動することを最優先しています。




次に、現状と課題 2、「高齢化と後継者不足」についてお話しします。湊地区防犯協会は高齢化が進み、後継者不足が一番の課題ですが、これば社会全般に言える課題になっております。定年延長の影響で、元気な 70 歳代は現役扱いする企業も多く、リタイヤ後の有為な人材が生まれにくくなっています。また、掛け持ちで様々な会合や総会に出ますが、どこも高齢化と後継者不足が課題になっています。各種団体のうち、子供会は若手の人材が多いのですが、仕事と子育ての掛け持ちで多忙を極めており、スカウトは難しい状況で、以前は頼りにしていた、いわゆる専業主婦も激減しています。新たに、防犯協会に入ろうと名乗りをあげる方が中々おらず、現在も限られた人数で活動しています。

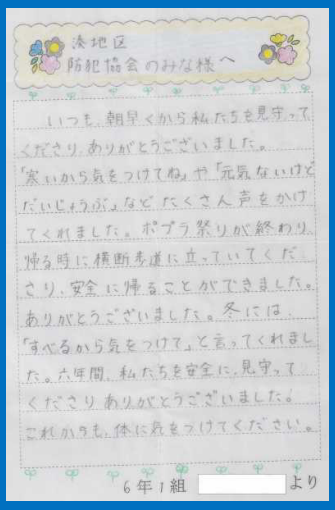


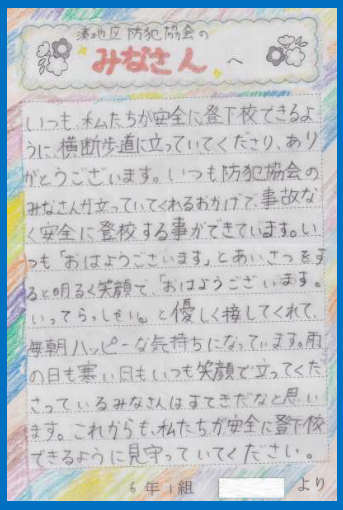

次に課題解決に向けた取り組みについてお話しします。私たちは課題解決に向けて２つの取り組みをしています。

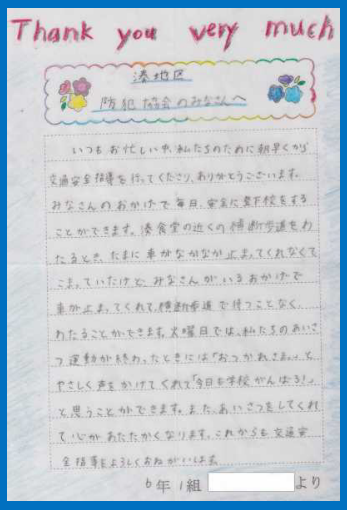
まず、【取組①】についてですが、日頃の防犯活動そのもので地域住民にＰＲをして、活動への理解と協力と、防犯協会への新規入会を呼びかけています。

次に、【取組②】についてですが、先ほどもご紹介しましたとおり、湊公民館まつりに参加し、ブースを設けて活動を地域住民に紹介し、活動への理解と協力を呼びかけています。確かに、日常的な登下校の見守りをするのは、仕事があり多忙な現役世代には難しいかと思います。ただ、「土日など休日に実施するイベントだけでも良いので手伝ってもらえませんか？」、「できることからやってみませんか？」ということで、めぼしい方に積極的に声を掛け誘っているところです。今後とも地道に活動したり、住民と交流することで防犯協会に興味を持ってもらい、地域に貢献できる有意義な活動であることを理解してもらい、入会を希望する人を増やして後継者を獲得したいと考えています。

# 子どもたちの声を力に～種を蒔き続けること～




最後になりますが、小学校６年生の子どもたちから湊防犯会に寄せられたお手紙を２通紹介したいと思います。

まず、向かって右側の一通を読ませていただきます。

「湊地区防犯協会の皆様へ。いつも朝早くから私たちを見守ってくださりありがとうございました。『寒いから気をつけてね』『元気ないけど大丈夫？』などたくさん声をかけてくれました。ポプラ祭りが終わる帰り道に横断歩道に立っていてくださり、安全に帰ることができました。ありがとうございました。冬には『滑るから気をつけて』と言ってくれました。６年間、私たちを安全に見守ってくださり、ありがとうございました。これからも体に気をつけてください。」

もう一通は真ん中のお手紙です。

「湊地区防犯協会の皆さんへ。いつも私たちが安全に登下校できるよう、横断歩道に立ってくださり、ありがとうございます。いつも防犯協会の皆さんが立ってくれているおかげで、事故なく安全に登校することができています。『おはようございます』と挨拶をすると、明るく笑顔で『おはようございます。行ってらっしゃい』と優しく接してくれて、毎朝ハッピーな気持ちになっています。雨の日も寒い日も、いつも笑顔で立ってくださっている皆さんは素敵だなと思います。これからも私たちが安全に登下校できるよう、見守っていてください。」

私たちが街頭に立ち続け、見守り活動をしてきたことについて、素直で素朴な感謝の気持ちが綴られています。少子高齢化や核家族化により家庭の教育力が低下し、人間関係の希薄化やコミュニケーションの減少等により、地域の教育力が低下し、ひいてはコミュニティの弱体化が指摘されて久しいところですが、子どもたちは私たちの姿を見ながら育っていることに間違いありません。

子どもたちには「みんながかけがえのない大切な存在であり、コミュニティの一員として健やかに成長することを祈っている」と、活動を通じて伝えたいと切に願っております。

私たち湊防犯会の会員は１万人のうちの 14 人ですが、地域社会が安全で安心な場所になるよう牽引していく立場にあり、それを次世代に引き継ぐ責任があると考えて活動しております。そして今後も種を蒔き続け、花が咲き、実が結ばれるよう、地域に根ざした活動を続けていきたいと思っています。

これからも湊防犯会は、「ふるさとをグレット見守りパトロール」を継続して地域住民の声を聞き、子どもたちを見守って声をかけ、次世代のために種を蒔きながら、地元に根付いた団体を目指して活動していきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

## ■講　評

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

ご発表ありがとうございました。資料を拝見して、「グレット」ってなんだろうとずっと思っていたんですね。方言だったんですね。ありがとうございます。

質問が２つありまして、まず１つは、後ほど私もお話しさせていただきますが、「子どもたちの声を力に」ということで、お手紙を紹介していただきました。日々頑張ってくださっている方に、子どもたちからの心のこもったお手紙というのは、とても嬉しいと思います。これは、お祭りの時にブースを出す際に掲示とかはされているのですか？お手紙を貼り出したり。

**【発表者（加賀氏）】**

公民館祭りでは、ちょうどこういうものを作ってテーブルの上に全部置き、「子どもたちからのお便りです」というふうにして。そうすると、来た方はこれをずっと読みながら、という感じでブースに置いております。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

とてもいいと思います。やはりこう、子どもたちから感謝されているところを周りの人が見ると、「やってもいいかな」という気持ちになりやすいと思いますし、とてもいい取り組みだなと思っています。

もう一点ご質問させていただきたいのは、「活動のボーダーレス化」についてです。防災の話が出たと思うんですが、比較的沿岸部で、防災の方をやられている方がいるのではないかなと思うんですが、その辺を防犯と防災、もう一緒にしてしまってやるというのは難しいものでしょうか。

**【発表者（加賀氏）】**

今、連合町内会の中に自主防災会という組織がありまして、それと私たち防犯会というのは切り離された組織になっています。ただ、発表の中でもあったように、活動があるとき、例えば夜間であったら誘導するというふうなことで、そういう部分では連携してやっています。それと、９月に防災の日を設定して連合町内会の方でやっているのですが、それにも防犯会の一員として参加するということにしています。ただ、それが全部の領域で、というのは、まだそこまで行っていないかな、という気がします。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

やはり沿岸部になると防災についての意識がすごく高くて、防災のボランティアをされている方は結構たくさんお見かけするんですね。ただ、防犯と防災は割と近いところにあって、協力し合えるのではないかと。要は、分けてそれぞれ独立してしまうと、人数が少ない中で負担が大きくなってしまうと思うんですが、そこを一緒に協力しながら団体として育てていくと、防犯より防災の方が運動としては強い気がするので、その力を借りつつ協力していくと、組織として盛り上がるのかな、と思ったりしました。

**【発表者（加賀氏）】**

花火大会の警備で、警察の方からお願いされて出るのですが、一番はやはり地震が来て津波が来た時に誘導する立場ということで、そういうことも言われています。防犯だけではなく、実際、岸壁沿いで花火大会がありますので、津波が一番怖いですから、その時はもう率先して誘導路がたくさんありますので、それぞれそこに配置された隊員が誘導するという形になっております。

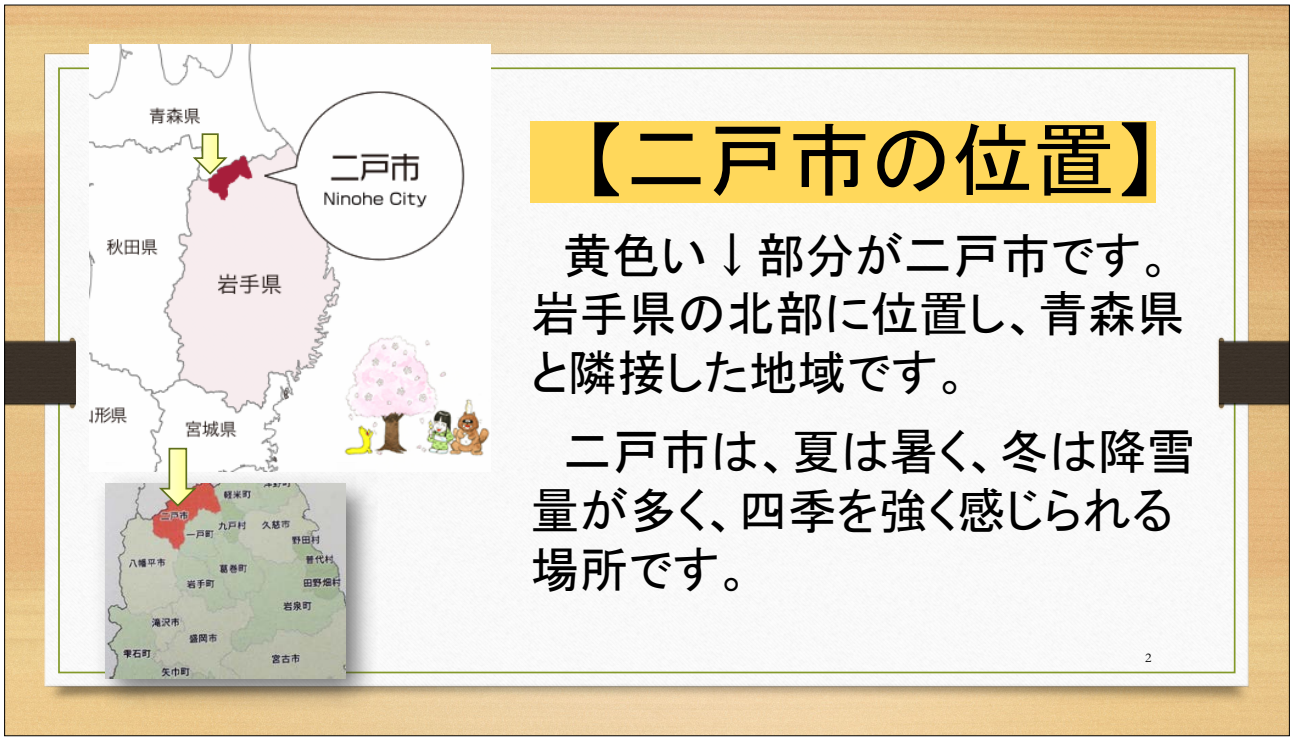
**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

これもまた後ほど講演の中でお話をさせていただきますが、あまり防犯・防災にこだわらず、逆にボーダーレス化されてしまって、好きな活動をやるということも、活動されている方が楽しくないと続きませんので、あまりこだわらずにやるというのも一つの手なのかな、というふうに思いました。

## 上斗米地区子ども見守り隊（岩手県）

岩手県上斗米地区子ども見守り隊の発表を始めさせていただきます。

今回、発表者を務めさせていただきます、上斗米地区子ども見守り隊 会長の小笠原大輔と申します。本日はよろしくお願いします。




早速、発表の方に移らせていただきます。まず、我々が暮らしている岩手県二戸市について簡単にご説明いたします。地図で示すと、黄色の矢印で示している赤いエリアが、私たちが住んでいる二戸市です。岩手県の北部に位置し、青森県と隣接し、秋田県にも近い場所となっています。二戸市の気候は、夏は暑く、冬は降雪量が多く、まさに日本の四季を強く感じられる場所です。

01 活動区域

○ 岩手県二戸市上斗米地区
二戸西小学校の学区全域。

○ 二戸市上斗米地区の概要
人口　744名
面積　おおよそ4千万平米
＝東京ドーム約850個分の大きさ

3

次に、活動区域についてご説明します。私たちが活動する区域は、岩手県二戸市上斗米という地区です。地区全体が二戸西小学校の学区内全域と同じで、私たちの活動区域となっています。

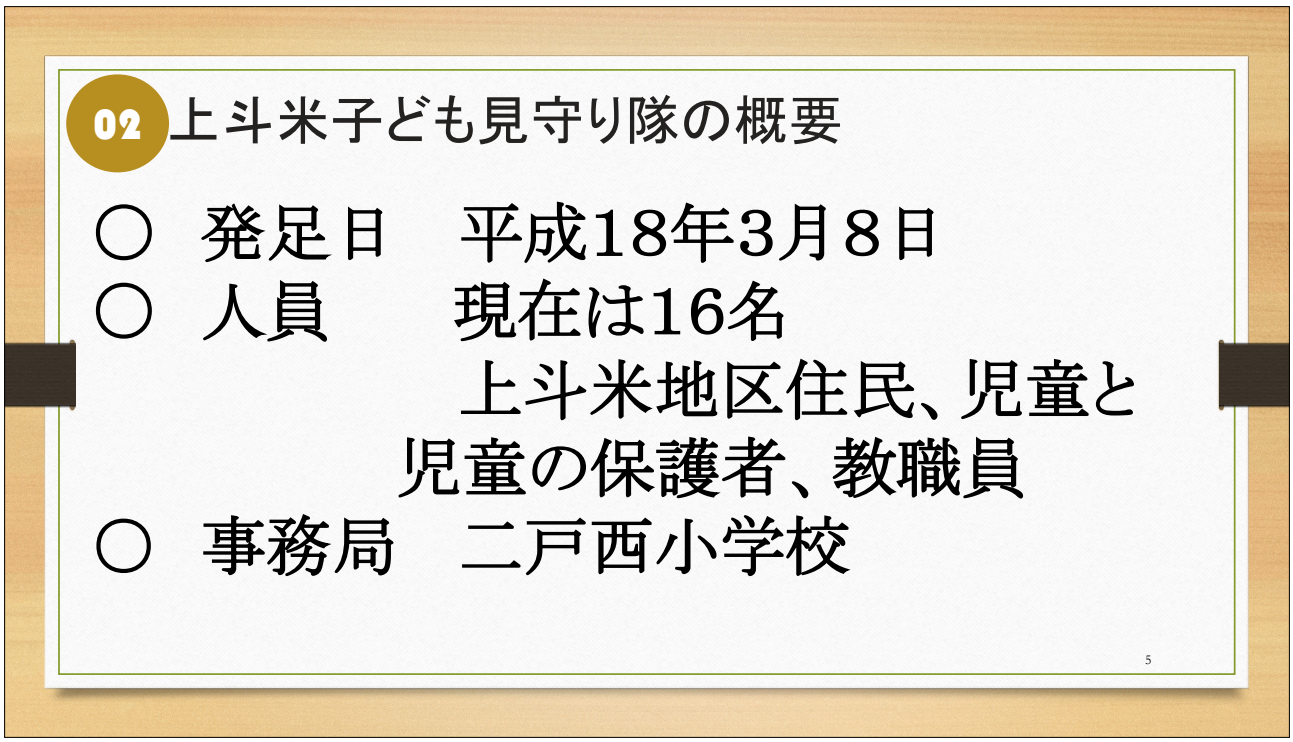
二戸市上斗米地区の概要について説明します。上斗米地区の人口は約 744 名で、地区の面積はおおよそ 4,000 万平米あり、東京ドーム約 850 個ほどの大きさに相当します。現在、小学校には児童 16 名が在籍しており、学校から一番遠い児童の通学距離は約 11.5 キロも離れています。地区の主な産業は農業であり、十文字川、金田一川沿いの低地帯では稲作、高原地帯では葉タバコや野菜を中心に、畑作と酪農を主な生業としています。

【上斗米子ども見守り隊の活動区域について】

二戸西小学校の
学区内全域
＝
上斗米地区内全域
かなり広い区域です。

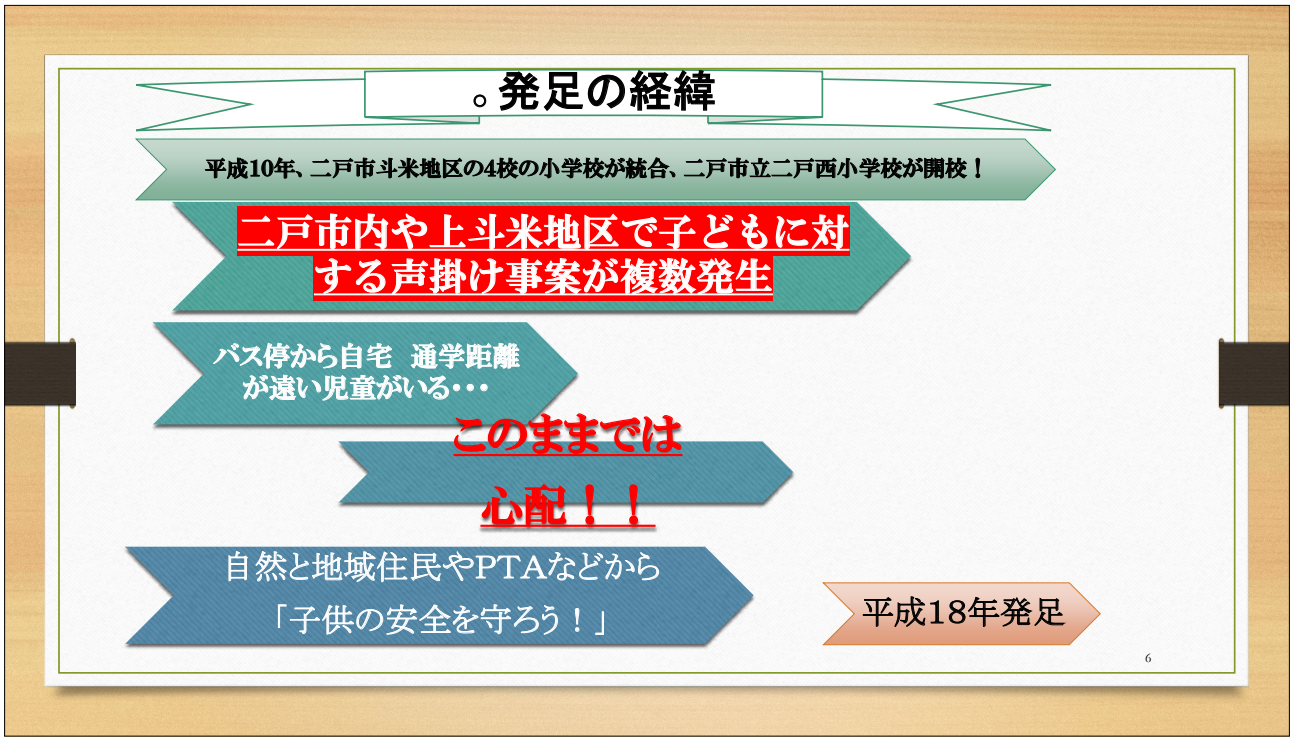
【二戸西小学校の位置】

地図で見ていただいてわかるように、かなり広い区域となっており、地域全体はほぼ山というか、中山間地の山あいにある小さな学校というイメージのところです。



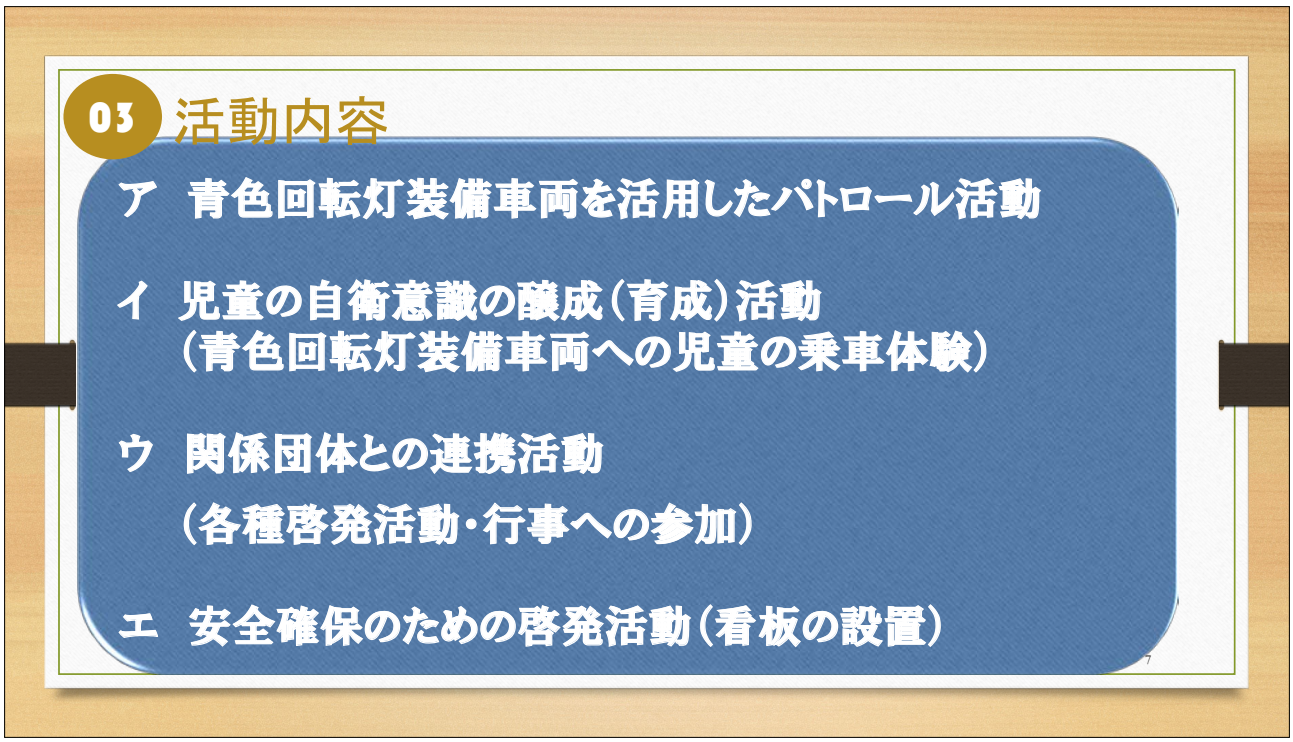

次に、上斗米子ども見守り隊の概要について説明します。

隊の発足は平成 18 年 3 月 8 日で、現在の隊員数は 16 名です。隊員は上斗米地区の住民、児童の保護者、教職員で構成され、その多くがスクールガード隊員を兼任しており、活動を行っています。また、事務局は二戸西小学校に置き、活動しています。

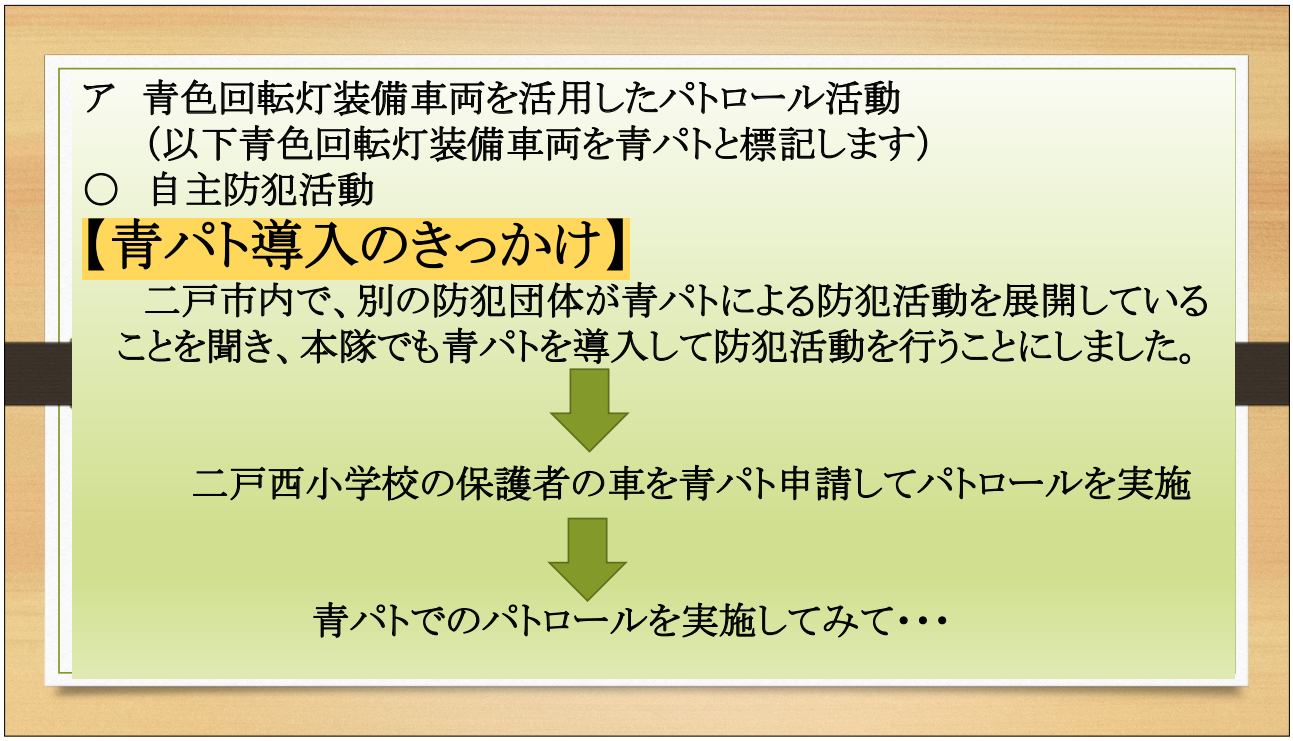



発足の経緯について説明します。

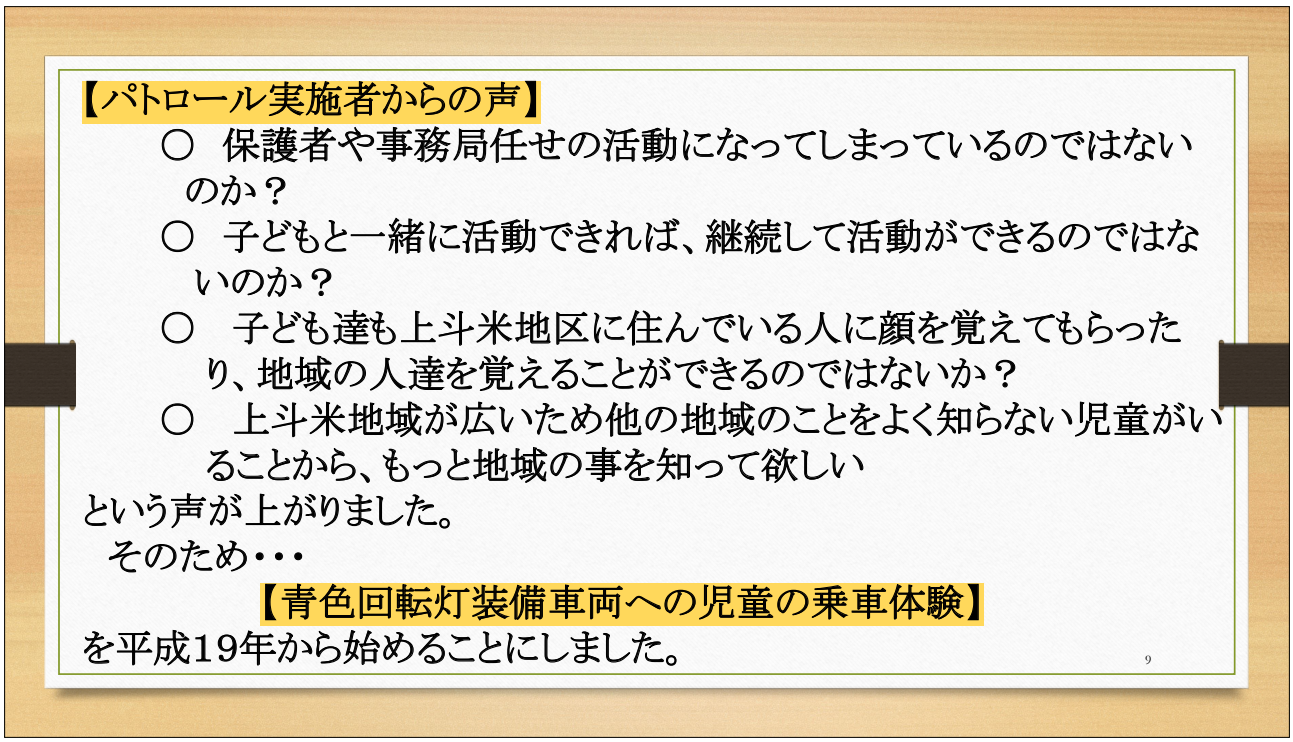
隊の発足以前は、上斗米地区には 4 つの小学校がありましたが、児童の減少に伴い平成 10 年に 4 校が統合され、現在の二戸市立二戸西小学校が誕生しました。その後、二戸市内や上斗米地区で子どもに対する声かけ事案が複数発生したことを受け、「バス停から自宅までが遠い児童がいる」などの理由から、地域住民や PTA など、地域全体で子どもの安全を守ろうという声が上がり、発足に至りました。




次に、活動内容について説明します。当隊の主な活動として、4つの項目があります。




1つ目は、「青色回転灯装備車両（青パト）を活用したパトロール活動」です。私たちが活動に青パトを取り入れたきっかけは、二戸市内の他の防犯団体で青パトを活用した防犯活動を展開しているということを聞き、私たちの隊も導入することを決めました。現在、二戸西小学校には16名の児童が通っていますので、この子どもたちの安全・安心を守るため、広い地域を保護者の車両2台の青パトで、実施者は3名体制でパトロールを行っております。当初、青パトでの防犯パトロールは保護者を主体に実施していましたが、活動を進めるにあたり、実施者からは次のような声が聞こえてきました。




・「保護者や事務局の人だけの活動になってしまっているのではないか」
・「子どもと一緒に活動できれば、継続して活動ができるのではないか」
・「子どもたちも上斗米地区に住んでいる人たちに顔を覚えてもらったり、地域の人たちを覚えることができるのではないか」
・「上斗米地区が広いため、他の地域のことをよく知らない児童がいることから、もっと地域のことを知ってほしい」

という声が上がりました。

そのため、思い切って「子どもたちと一緒にパトロールしたら良いのではないか」という話になり、平成 19 年から小学校 5・6 年生を対象に体験乗車を始めることにしました。

イ　青色回転灯装備車両への児童の乗車体験

　上斗米子ども見守り隊では、小学5年生以上を対象として、児童に青色回転灯装備車両への

【乗車体験】

を年に1回から2回実施しています。

　児童に乗車体験をしてもらう

【一番の狙い】

は・・次のページへ

活動の２つ目は、「青パトへの児童の体験乗車」です。これは当隊ならではの活動で、目玉となっています。この活動は、小学校５年生以上の生徒を対象に、年に１回から２回ほど、児童に青パトでのパトロールに乗車してもらい、乗車体験を実施しています。乗車体験は、事前に学校を介し、保護者の方に了承を得た上で青パトに乗車してもらい、一緒にパトロール活動をしています。活動時は安全運転に特に配慮して実施しています。

この体験乗車をしてもらう一番の狙いは、次の３点になります。

【乗車体験の狙い】

○　子ども達に防犯の重要性を教えることで、防犯に対する関心・自衛意識を育てることが出来る

○　コミュニティの絆を深めること、互いに助け合い、注意を促し合う環境を作ることが出来る

○　自分達だけでなく、地域、学校や家族が一体となった活動が出来ることに繋がること

が大きな狙いです。

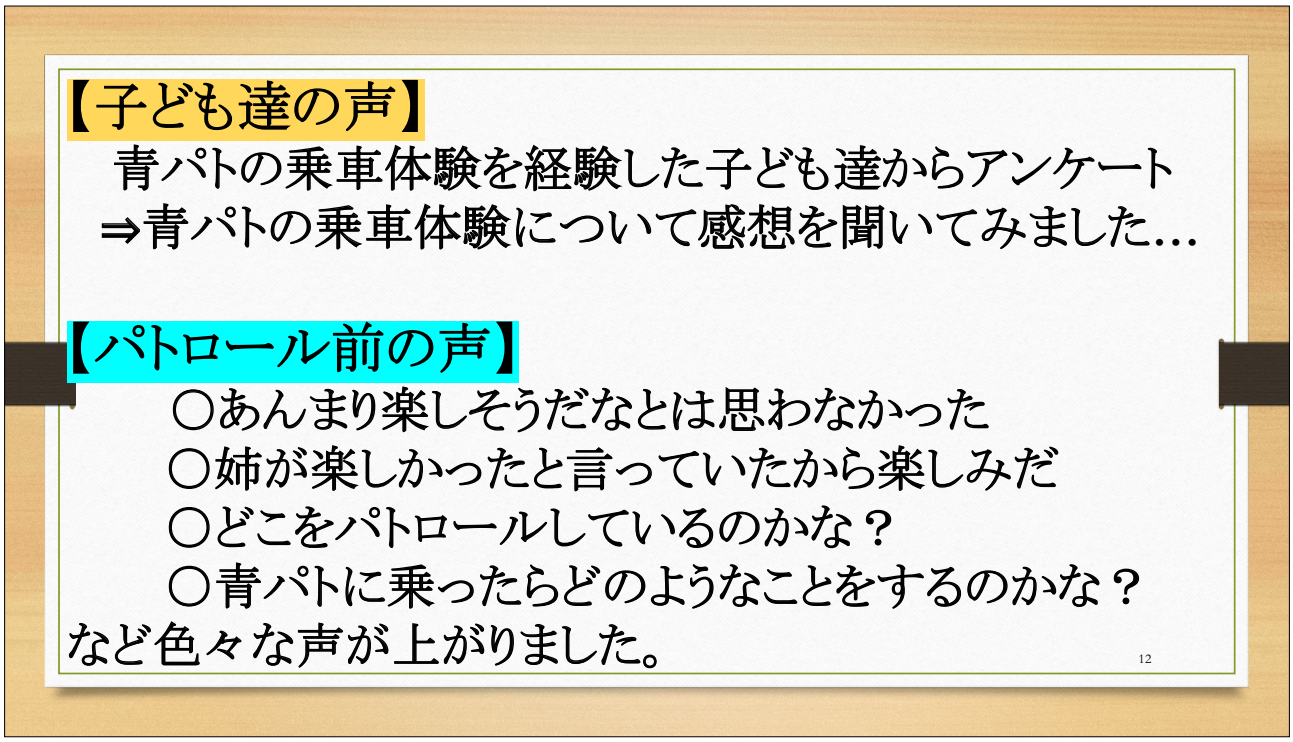
11

・子どもたちに防犯の重要性を伝えることで、将来の防犯意識を育てること。

・コミュニティの絆を深めることで、互いに助け合い、注意を促し合う環境を作ること。

・自分たちだけでなく、地域、学校や家族が一体となった活動ができることにつながること。

また、体験乗車を通じて子どもたちの成長につながれば、実施者にとってもやりがいが生まれると思っています。




今回、実際に青パトに乗車した子どもたちからアンケートをとっていただき、乗車体験の感想を聞くことができました。

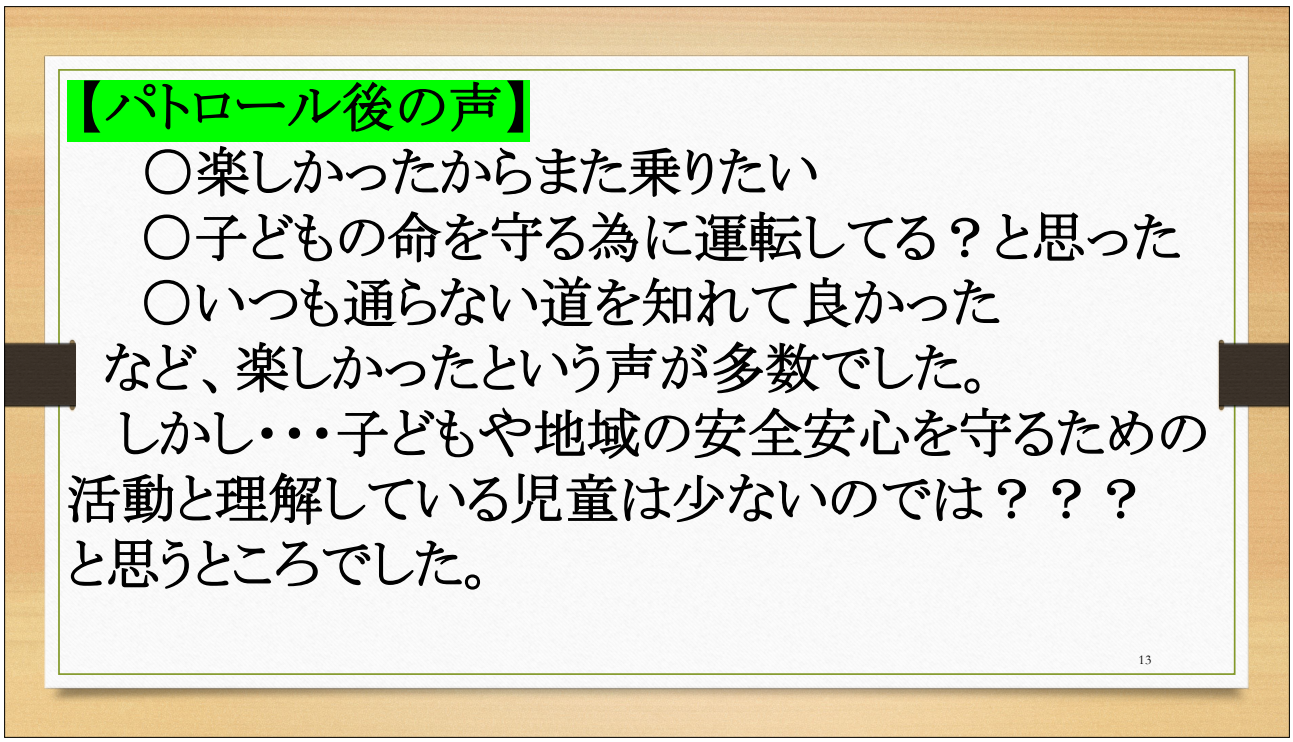
乗車体験前の声としては、

・「姉が楽しかったと言っているから楽しみだ」

・「どこをパトロールしているのだろう」

・「青パトに乗ったらどのようなことをするのか」

など、いろいろな声が上がりました。




乗車体験後の感想としては、

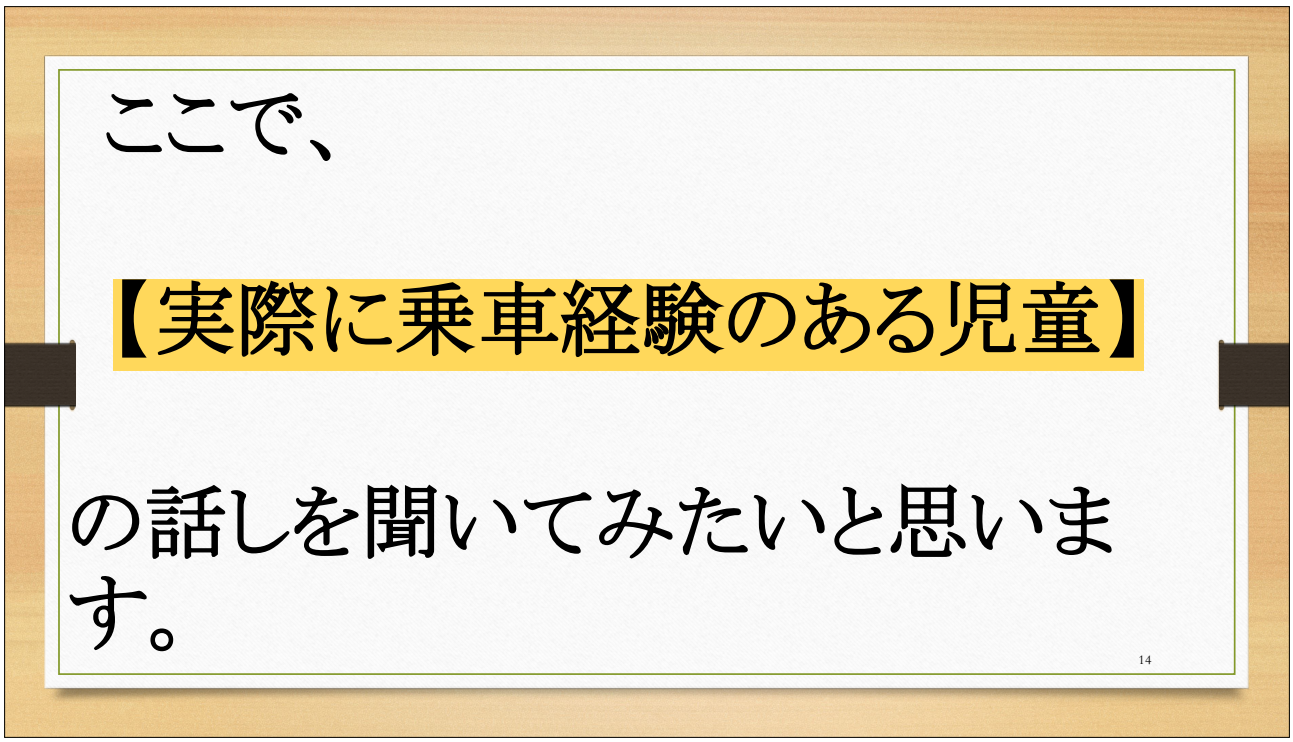
・「楽しかったからまた乗ってみたい」

・「子どもたちの命を守るために活動しているのかなと思った」

・「いつも通らない道を知ることができてよかった」

・「思ったよりも楽しくて、また乗りたいなと思った」

など、好印象を持ってくれているようでした。しかし、防犯や子ども、地域の安全・安心を守るための活動であるということを理解している児童は実は少なく、私たちが考えていたものとは少しズレがありました。




ここで、実際に小学生当時に乗車体験をした児童に少し話をしてもらおうと思います。私の長男で、小学校５・６年生の時に４回ほど体験乗車をしています。

福岡中学校１年の小笠原はるとです。

僕が二戸西小学校に通学していた時に青パトの乗車体験をしたので、お話をします。

僕のお父さんは、いつも通学路を青パトでパトロールしてくれています。僕が青パトの乗車体験をしたとき、正直「いつも家で乗っている車で走るんだろう」と思うくらいでした。でも、いざ青パトに友達と一緒に乗って、お父さんが通学路の見通しの悪い場所や危険なところを教えてくれたりして、すごいなと思いました。お父さんや地域の人、学校の先生とかが青パトロールとか見守りをしてくれると、学校に行く時とか遊ぶ時とか、安心できるなと思いました。

はい、ありがとうございます。これからは写真の説明となります。

こちらの写真は、これまで行ってきた青パトの体験乗車の際に出発式を行った際の写真となります。

次のスライドは私が去年、令和６年に行った体験乗車を実施した時の写真で、右側は別の日に前隊長さんが行った時の写真です。

# 【青パト乗車体験】

17

実際に青パトに出発する様子です。

# 【青パト乗車体験】

18

子どもたちも青パトに楽しそうに乗ってくれていました。

ウ　各種安全運動等の行事による啓発活動への参加

○　地域、交通安全運動、年末年始特別警戒への参加、毎年、春と秋に実施される二戸警察署及び関係市町村と協力した春の地域安全運動、交通安全運動、年末年始特別警戒活動等関係団体との連携した活動へ積極的に参加

○　りんご盗難防止パトロールへの参加

令和5年には、二戸市内で複数発生したりんご盗難に伴う警戒活動へ青パトで参加し、被害防止のための啓発パトロールを実施

活動の３つ目は、「各種安全運動等の行事における啓発活動への参加」です。

まずは「地域交通安全運動」「年末年始特別警戒」への参加となります。毎年春と秋に実施される二戸警察署及び関係市町村と協力した「春の地域安全運動」「交通安全運動」「年末年始特別警戒活動」へ毎年参加させていただいています。また、二戸警察署、二戸市と協力して、二戸西小学校の地域外でも犯罪の発生や、被害現場付近の警戒活動に参加しており、被害防止のためパトロールを行っています。

令和５年には、二戸市内で複数発生したりんご盗難被害への発生を受け、りんご盗難防止パトロールへ参加しています。この活動の際にはテレビでも取材があり、取り上げられました。このような警察や関係団体からの、時には突発的な活動要請についても積極的に参加するようにしています。

【春の地域安全、交通安全運動】

【年末年始特別警戒活動】

【りんご盗難防止パトロールへの参加】

## エ　各種啓発活動（看板の設置）

当隊では、子どものスクールバスや地域住民が利用するバス停留所に事故防止のための看板を設置し、事故防止について働きかけることが出来ました。

看板の設置箇所については、運転手が目にする場所・より効果的な場所を選定

【現在15箇所】

に設置。

看板については、

【二戸西小学校児童のデザイン】

を採用しました。

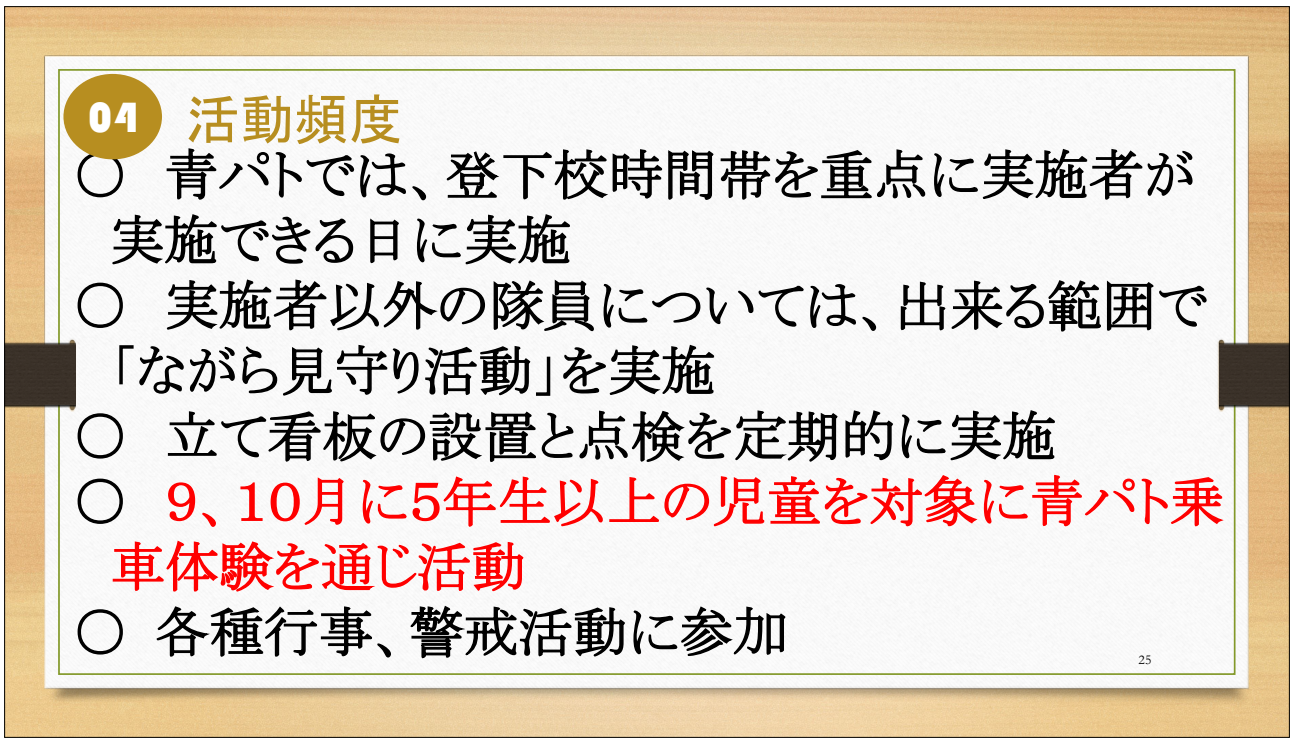
活動の４つ目は、「防犯・交通安全のための看板の設置」です。

青パトの活動以外にも様々な活動を行っており、その一つが防犯・交通安全のための看板を設置し、啓発活動を行っていることです。主な設置場所は、子供が利用するスクールバスや地域住民が利用するバス停留所で、事故防止や防犯について注意喚起をしています。この看板については、二戸西小学校の児童がデザインしたものを使用し、現在は約 15 箇所に設置しています。

## 【設置した看板】

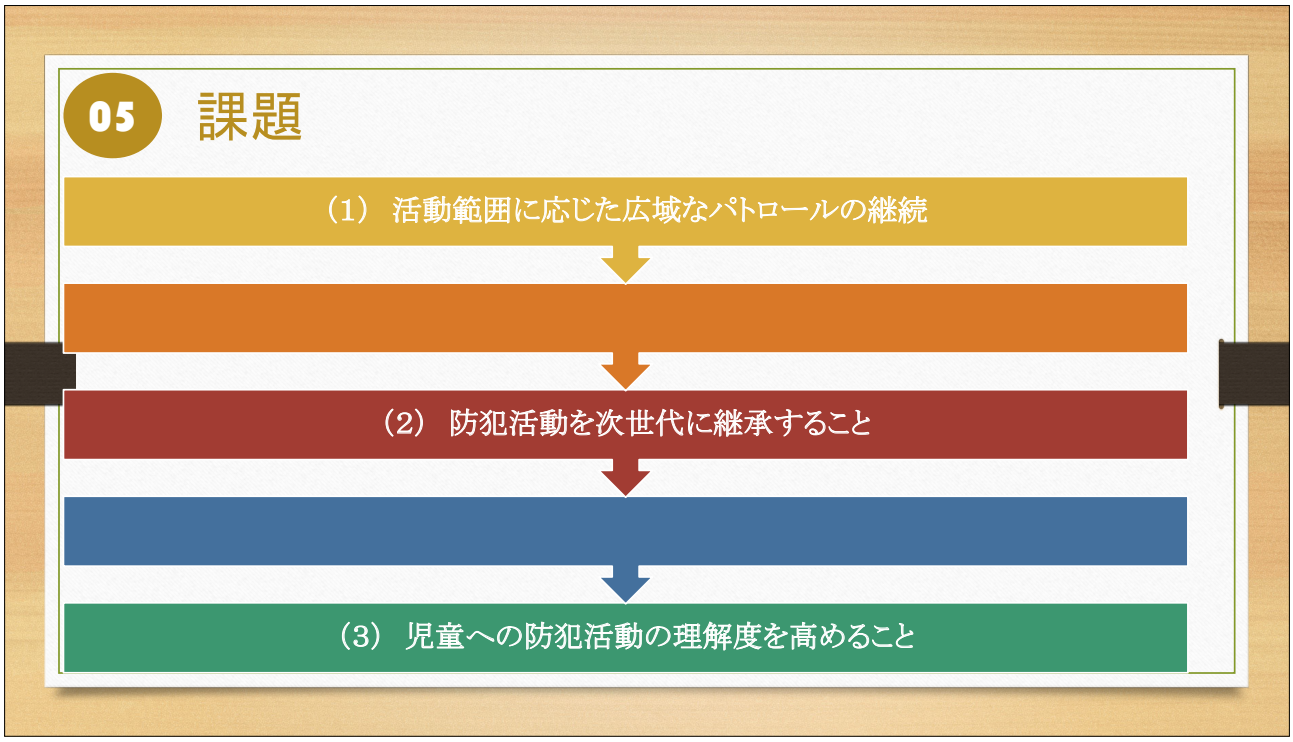
24

狙いとしては、車を運転している人にわかりやすく「見守り隊」と書くことで、「子どもが通学する場所、子供がいる場所である」ということを周知しています。また、「子どもを地域で見守ろう」という意図を込めて、できるだけ目立つように制作しました。



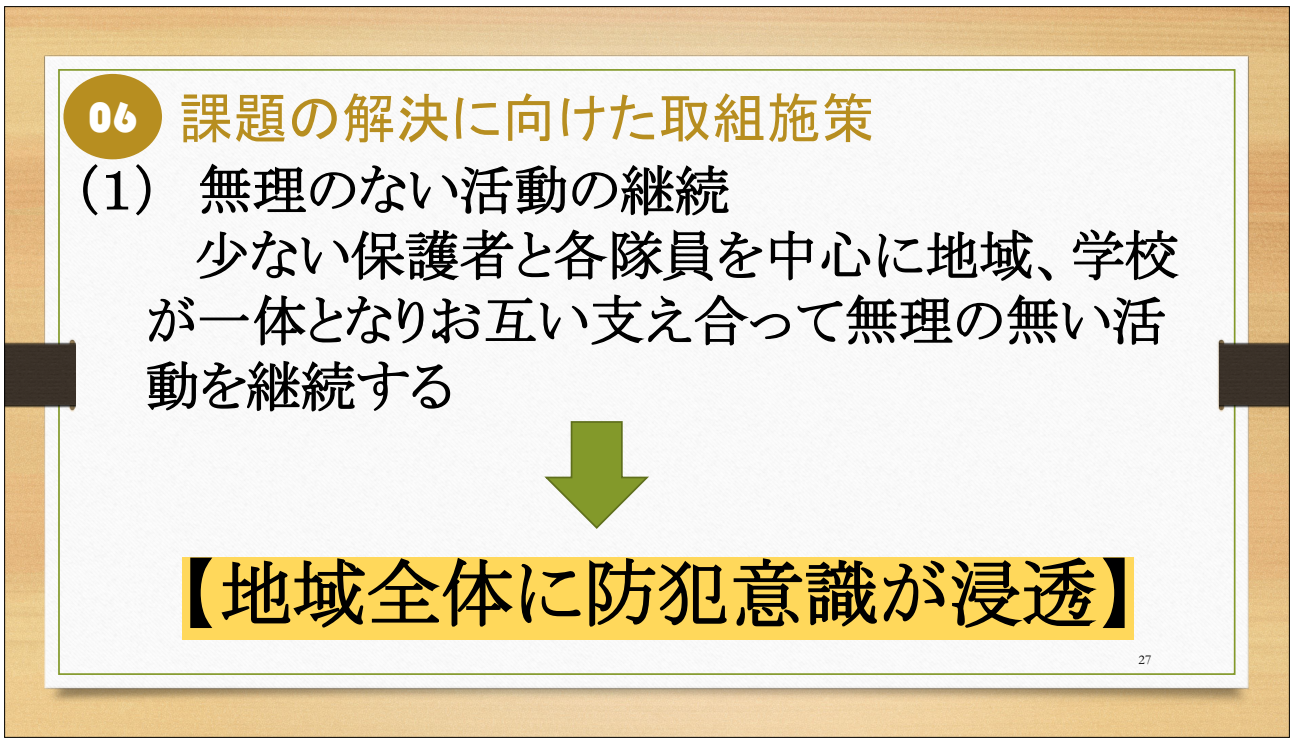

次に活動頻度について説明します。

青パトでの活動は、実施者ができる範囲で児童の登下校時間帯を狙って、定期的に「ながら見守り活動」を実施しています。その他に、立て看板の新規設置や保守点検などを定期的に実施しています。9 月、10 月には、先ほどお話しした二戸西小学校の児童を対象に青パト乗車体験など、各種行事・啓発活動に参加しております。



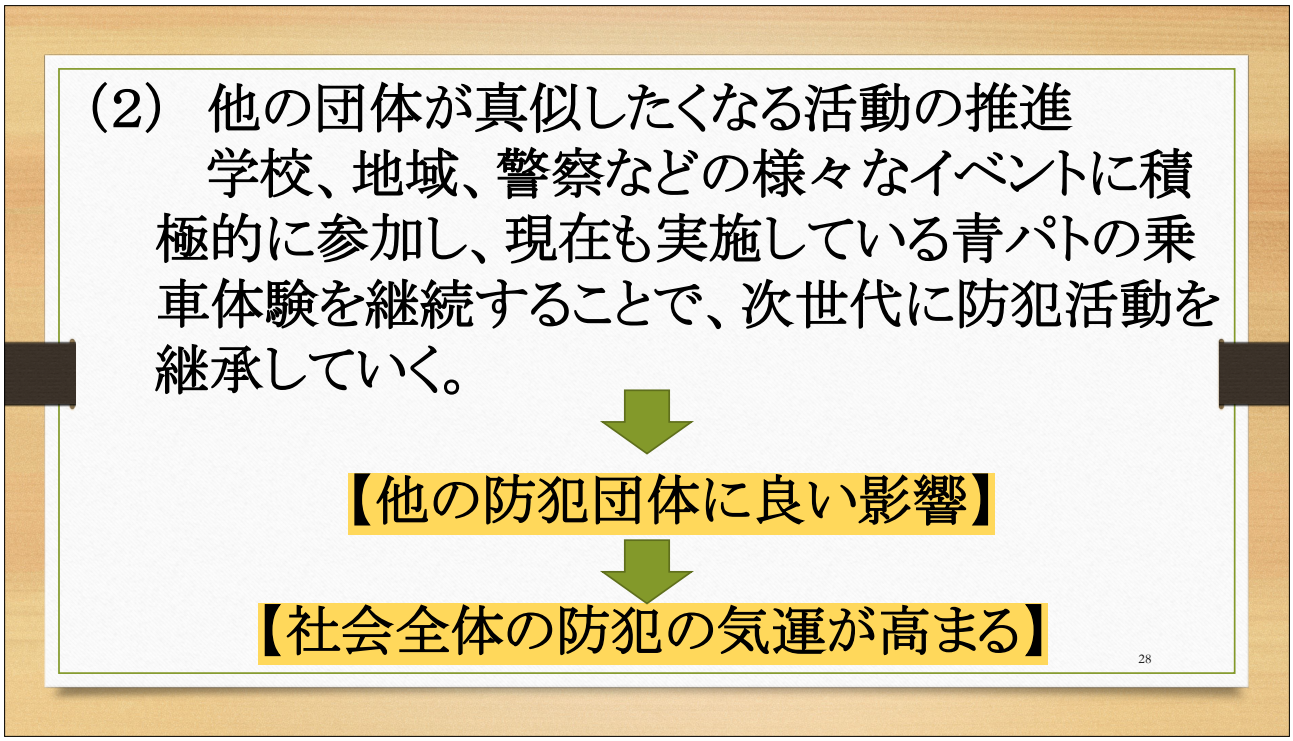

次に、課題について説明します。課題については３つあると考えています。

１つ目は活動範囲に応じた広域なパトロールの継続、２つ目は防犯活動を次世代に継承すること、３つ目は児童への防犯活動の理解度を上げること、となります。




これらの課題の解決策について説明します。

１つ目の「パトロールの継続」については、無理のない程度に活動を継続し、少ない保護者と各隊員を中心に、地域・学校が一体となってお互い支え合い、一人一人が無理のない活動を継続することです。継続することによって、地域全体に防犯意識が浸透していくことにつながると思っています。




２つ目の「次世代への継承」についてです。学校、地域、警察など様々なイベントに積極的に参加し、現在も実施している青パトの乗車体験を継続することにより、次世代に防犯活動を継承していきたいと思っています。これらの活動を継続することで、他の防犯団体にも良い影響があるのではないかと思っています。

（3） 児童と一緒に防犯活動

今後を担う児童に対して、自身の命を守るため、地域の安全安心を守るため、自衛意識の醸成のきっかけを作り、今後の防犯活動が生活にどのように影響していくのかを理解してもらうことが重要です。

そのためには、

**【児童が楽しめる防犯活動】**

を展開を継続していくことが重要になってきます。

29

3つ目の「児童への理解度向上」についてです。今後の防犯活動を行う上で一番重要視している部分でもあります。将来の防犯を担う児童に対して、今後の防犯活動が生活にどのように影響していくのかを理解させることが重要です。そのためには、子どもたちが楽しめる活動を展開し、継続していくことが重要だと思っています。アンケートでわかった反省点などを踏まえて、今後の活動に活かしたいと思っています。

**【安全安心な町にしていきましょう】**

最後になりますが、青パトの乗車体験は今後も継続し、小さな活動を重ねることで、地域全体の防犯意識を高めることにつながればと思っています。児童、学校、地域全体で安全・安心なまちを作っていきたいと思います。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

## 講　評

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

ご発表ありがとうございました。すごく楽しくお話を拝聴させていただきました。

まず一つ質問ですが、かなり広そうなエリアですが一番遠い生徒さんはどのぐらいの距離を移動するのですか。

**【発表者（小笠原氏）】**

11.5 キロぐらいです。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

10 キロ超。そうすると、歩いてはこないでしょうから、車、バスですか？

**【発表者（小笠原氏）】**

スクールタクシーとものので移動します。一箇所に集まってタクシーに乗って学校まで来るというイメージです。スクールバス、スクールタクシーの両方を利用しています。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

なるほど。これ、いつも毎回このフォーラムに来て思うのですが、地域によって全然事情が違って、都市部だったらほぼみんな歩いてきますが、山間部に行くと今回のようにすごく距離が遠いので車を使い、車を降りたところから見守り活動をする、という事情がかなり違うので、その地域ごとの特徴を掴んでよく活動していらっしゃるな、というのが率直な感想です。

もう一点、なんといっても質問したかったのは、お子さん、生徒さんを乗せるというのは素晴らしい取り組みだなと思いました。いろんなところで防犯ボランティア団体の方とお話しする機会があるのですが、子どもたちも乗って、というのはあまり聞いたことがないので、珍しいのかなと思いました。

その上で、お子さんを乗せる、生徒さんを乗せるというのは、防犯意識の向上以上に、多分いろんな効果があるのではないかと思います。先ほど発表していらっしゃったように、大人の思惑通りに多分子どもは感じてなくて、もっといろんなことを感じてくれていると思います。ぜひまた後で聞いてみてください。大人は思いもしないようなことを感じているのではないかなと思います。

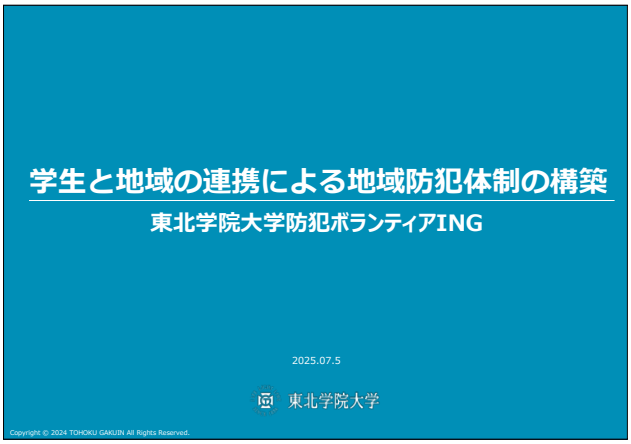
この取り組み自体は、防犯意識ということだけではなくて、普段大人がどういうところを見てくれているのかという気づきにもなりますし、地域に対する愛着みたいなものにもつながっていくと思います。そうすると、それが巡り巡って、今の安心だけではなくて、10 年後、20 年後のその地域の安心にもつながるのではないかと思うので、すごくいい取り組みだなと思います。

それからもう一点コメントですが、人の目が大切だというのは、ここにいる防犯ボランティアをされている皆さん、よくご存知のことと思います。パトロールするのは犯罪者に人の目を意識させて犯罪をさせないということにつながるわけですが、これは別に大人である必要はないです。子どもであっても、人の目があるところでは犯罪者は犯罪をしにくいわけです。子どもを巻き込んで防犯活動をするというのは、実は子どもを守られる側でありながら、守る側にも回れるんだという

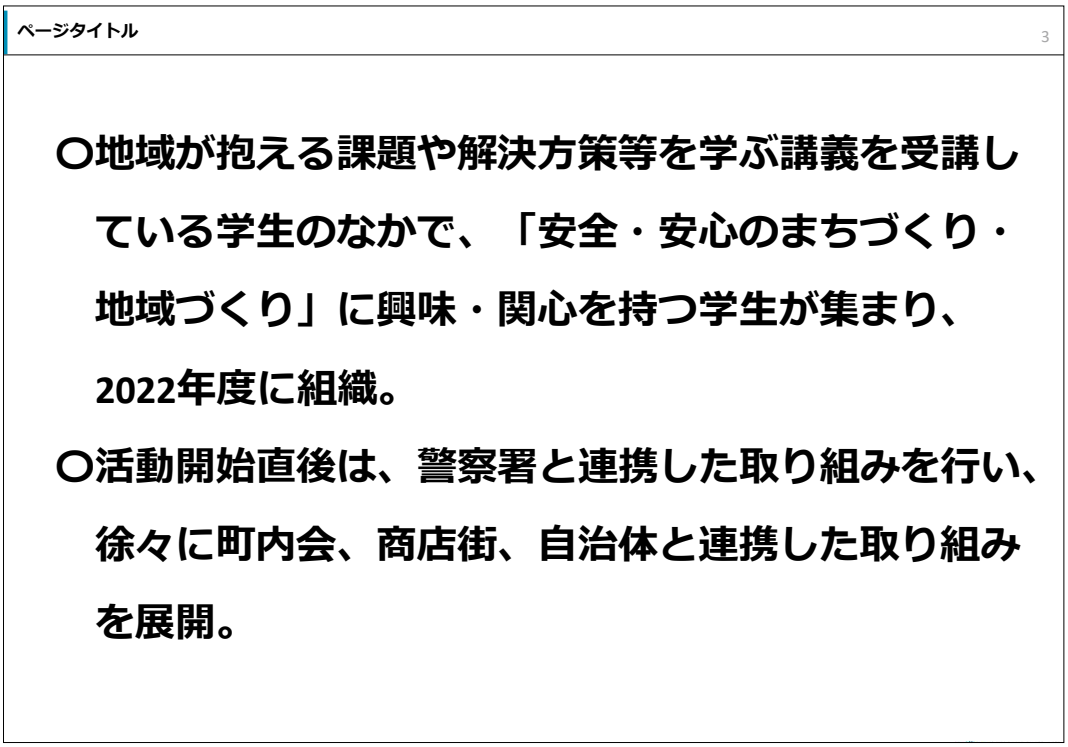
のを、ぜひいろんなところで広めていただくといいのかもしれないと思いました。

特に上級生になると、今の子たちは携帯電話を持っていますから、何かあれば言ってくれると思いますし、人数がかけられないようなところでは、子ども自体が参加してくれるような形を作ると、もしかするともっと活動も楽しくなると思います。

# 東北学院大学防犯ボランティアチームＩＮＧ（宮城県）




皆様こんにちは。ただいまご紹介をいただきました、東北学院大学防犯ボランティア ING に所属しております、４年の吉村明莉です。本日は、私たちが取り組んでいる活動等の紹介をさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。




まずはじめに、私たち防犯ボランティア ING について説明させていただきます。

私たちの大学では、地域が抱える課題を見出し、解決策等を考える授業があります。

その授業の中で担当している先生から、「地域の安全・安心なまちづくり、地域づくり」に携わりたい学生を募集していることを受けた先輩たちが集まって組織されました。2022 年度のことです。

この後、写真等でご紹介をさせていただきますが、活動開始直後は、警察署の方と一緒に活動をしておりましたが、私たちの活動を知った町内会、商店街、自治体等と連携した取り組みも徐々に生まれるようになりました。私たち単独の活動は少ないかもしれませんが、地域の安全・安心なまちづくりには、やはりそれぞれ関わる人たちができることを重ね合わせていくことが重要であると考え、このような形としています。

## 活動の目的

5

**〇「安心・安全のまちづくり・地域づくり」を実現するため、地域の見まもり活動、特殊詐欺防止活動をはじめとする犯罪被害防止活動を行う。**

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

次に活動の目的ですが、私たちは、「安全・安心のまちづくり・地域づくり」を実現するため、地域の見まもり活動、特殊詐欺防止活動をはじめとする犯罪被害防止活動を行うことを掲げています。

## 活動内容について

7

**〇大学近隣地域における見守り活動**

- **五橋キャンパス周辺地域での清掃活動を実施しながらの「見守り活動」**
- **大学近隣の企業・組織が協働して実施する「清掃する・交流する」の活動への参加**

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

ここからは、実際に活動内容について説明をさせていただきます。

まずはじめに、大学近隣地域における見守り活動としましては、次の２つが挙げられます。

一つ目は、「五橋キャンパス周辺地域での清掃活動を実施しながらの見守り活動です。まさに「ながら見守り」も実践です。これは、本学独自の取り組みです。二つ目は、同じような活動となりますが、地域全体で行っている清掃活動に参加した際にも、「ながら見守り」を実践しています。

なお、この地域全体で行なっている清掃活動には、さまざまな企業や組織が参加していることもあり、終了後には、異業種交流会を開催しています。

## 活動内容について

8

### ○大学近隣地域における見守り活動

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

この写真は五橋キャンパス周辺地域の清掃活動を行いながらの見守り活動の様子です。

## 活動内容について

9

### ○大学近隣地域における見守り活動

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

見守りによって地域の安全・安心に関われているとともに、地域の美化活動にも関われていて達成感があります。

## 活動内容について

10

### ○大学近隣地域における見守り活動

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

この写真は、地域の企業や組織が共同して実践している「清掃・交流する」の様子です。清掃活動を終えて異業種交流を行っている際に紹介されているところです。この清掃活動時にも、危険な箇所がないか、危険が迫っていないかに気を配っています。

## 活動内容について

11

### ○地域と協働で実施する子まもり活動への参加

- 荒町地域の各種団体と連携した「荒町子まもりプロジェクト」への参加。
- 「子まもりハロウィン」の際、児童が事故に遭わないように見守る活動を実施

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

見守りに関しては、荒町地域の各種団体と連携した「荒町子まもりプロジェクト」への参加があります。荒町子まもりプロジェクトは、荒町地域の 40 を超える団体が関わり荒町学区の子ども防犯、地域防犯の意識を高める取り組みです。「子どもたちをまん中に安全安心な町を地域連携の力で！」「ながら見守り 365 日」をテーマに、10 月の 1 ヶ月を子まもり月間として重点的に活動しています。

この活動には、私たち防犯ボランティア ING も実行委員会への参加や子まもりハロウィンで事故防止活動に関わっています。なお、子まもりハロウィンは、子どもたちに危険が迫った際にお店に入りやすくすることを目的とした取り組みです。皆さんの地域にも「子ども駆け込み 110 番」があると思いますが、いざ子どもたちに危険が迫った時に入ったことのないお店に入るのは、とても勇気がいるようです。そのため、ハロウィンにちなんで「お菓子をあげるからお店に入ってみて」と、お店に一度でも入ってみて、お店の人の顔を知ってもらうことで、いざという時にお店に駆け込みやすくするというねらいから行われています。

ただし、小学校の全学年が参加するため、約 400 名の児童が広くはない商店街を歩き回ることになりますので、事故等が発生する危険性も高くなります。そのため、先生方や PTA、交通指導隊、町内会の方に加え、私たち大学生が関わって事故防止の活動を行っているというところになります。幸い、実際に事故にあったという話は聞こえていません。

この写真はお店を巡っているところの写真です。このような会話等を通じてお店に入りやすくすることにつなげています。

## 活動内容について

13

### ○地域と協働で実施する子まもり活動への参加

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

この写真は実際に見守り中の写真です。商店街の一定距離ごとに大人が 40 名ほど立って、児童が道路に飛び出さないかどうか、ふざけて道路で転んだりすることがないかなどを見守っています。歩道も広いとは言えません。ここを約 400 名の児童が行き来することになりますので危険度もおわかりいただけると思います。

## 活動内容について

14

### ○地域と協働で実施する子まもり活動への参加

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

子どもを真ん中に置きながら、安全・安心なまちづくりを地域全体で行うためには、同じ方向を向いたり、それぞれの団体・組織が行っている取り組みの共有、さらには地域の危険性や安全・安心なまちづくりを行うための意見交換、警察官などによる講習会を行っています。荒町こまもりプロジェクトには 40 を超える団体・組織の方が関わっていて、それぞれの立場で関われる取り組みや、一緒に取り組んでもらえる相手を探したいというネットワークづくりにも活かされています。

## 活動内容について



○特殊詐欺被害の防止

- 年金支給日での特殊詐欺防止啓発活動
- 警察と合同でのATM警戒活動
- 学生が主体となった啓発用チラシ等の作成
  - 助成金の活用

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

次に、特殊詐欺被害防止について説明します。

1つ目は、年金支給日の特殊詐欺防止啓発活動です。

## 活動内容について



○特殊詐欺被害の防止

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

写真はキャンパス近隣にある金融機関前の様子です。地域の方々も一緒にチラシやノベルティを配りながら、特殊詐欺被害防止活動を呼びかけています。

## 活動内容について

17

### ○特殊詐欺被害の防止

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

特殊詐欺被害防止活動について、地域独自の活動を行っているところもあるようですが、どうしても日々の生活の関係でお昼ぐらいからの活動になるようです。しかし、年金支給日となると、午前中から金融機関を訪れる高齢者の方もいるというお話を伺い、私たちは午前中の活動を行うことにしました。このように様々な主体がいることで、複数の時間帯で呼びかけを行うなど、広く被害防止に関わる活動ができるようになっています。

## 活動内容について

18

### ○特殊詐欺被害の防止

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

特殊詐欺被害防止活動を行う上で、私たちは仙台市から助成金を獲得し、このようなチラシやノベルティを作り配布しています。また、活動しているのが誰なのかというのもわかるように、ジャンパーや腕章も作成しています。

## 活動内容について

19

○特殊詐欺被害の防止

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

その他、のぼりも作り、チラシ等を受け取っていない方にも広く被害防止を呼びかけています。

## 活動内容について

20

○その他　犯罪被害防止活動

- 交通安全マナーアップ啓発活動
- 飲酒運転撲滅キャンペーン
- 年末年始特別警戒活動（パレード）への参加
- 学生が主体となった啓発用チラシ作成　など

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

東北学院大学

その他の取り組みとしては、地域が主体となって取り組んでいる交通安全マナーアップ啓発活動、飲酒運転撲滅キャンペーン、年末年始特別警戒活動に参加しています。

この写真は、本学五橋キャンパス前で行った交通安全マナーアップキャンペーンの様子です。学生、地域の方、警察官と一緒に交通安全やツーロックなどの呼びかけを行っています。

ここから４枚の写真は、年末年始の特別警戒を呼びかけるパレードに参加した時の様子です。仙台には国分町という繁華街がありますが、年末年始になると飲酒の機会が増えることから、自治体、警察、地域の方々が犯罪を起こさない、巻き込まれないように注意を呼びかけるパレードを行っています。そこに私たち防犯ボランティア ING も参加させていただいています。

当日は一緒に街を歩くだけでなく、学生がハンドマイクを持って通りを歩く方々に広く呼びかけを行っています。

## 活動内容について

29

○その他　犯罪被害防止活動

- 交通安全マナーアップ啓発活動
- 飲酒運転撲滅キャンペーン
- 年末年始特別警戒活動（パレード）への参加
- 学生が主体となった啓発用チラシ作成　など

Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

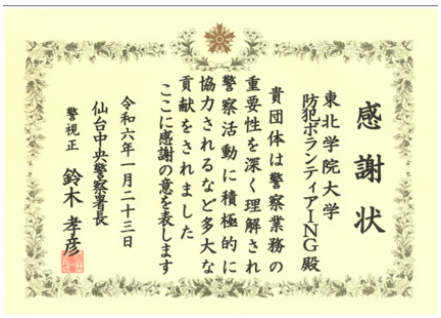
東北学院大学

また、先ほどの特殊詐欺被害防止活動の時と同じように、学生・若者向けに闇バイトに手を出さないことを呼びかけるチラシを作成し、配布しています。

## 活動内容について

30

○その他　犯罪被害防止活動など

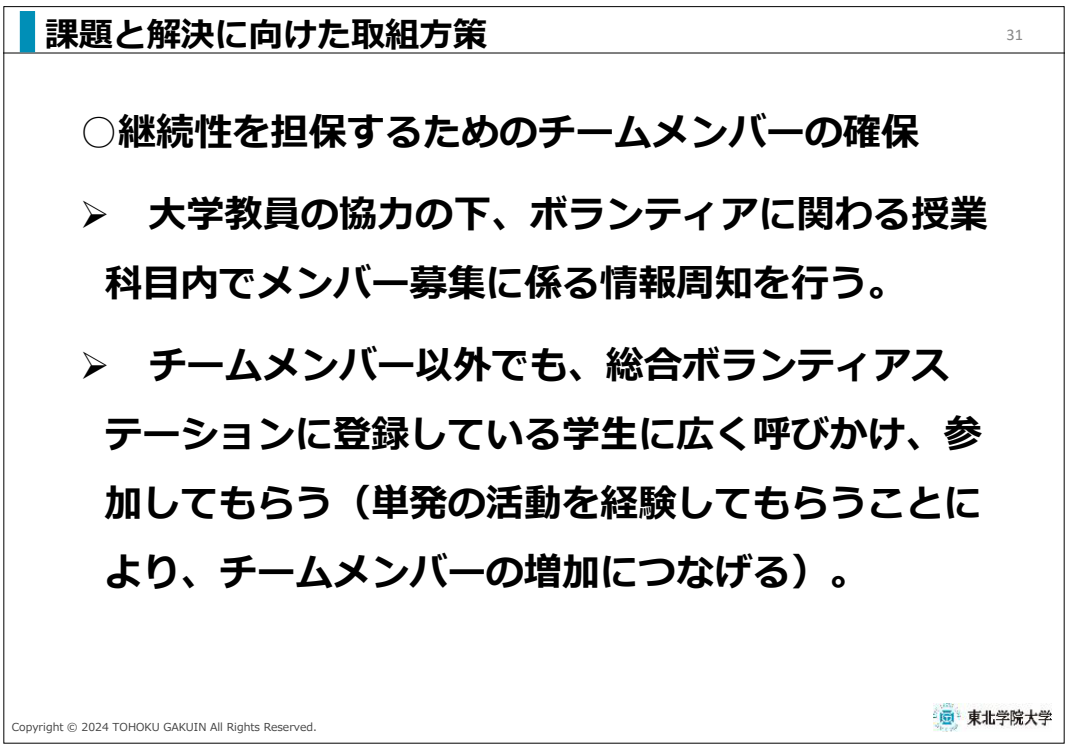


Copyright © 2024 TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.

学院大学

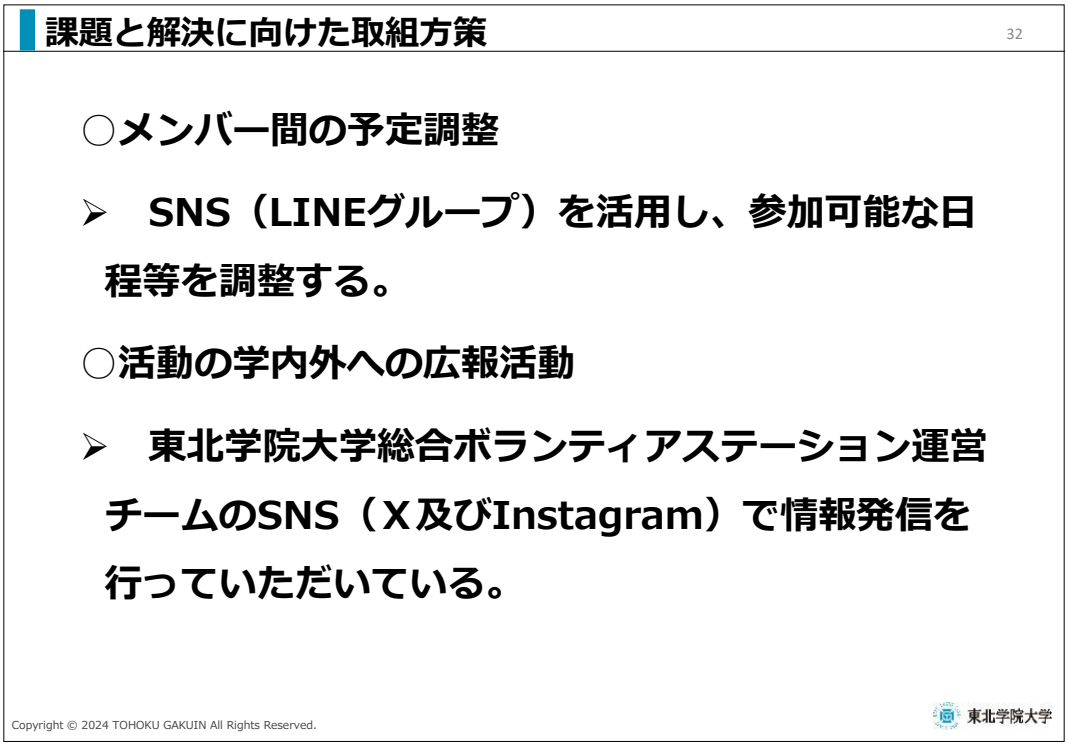
このチラシを作成する際には、地域や警察の方々から参考資料やアドバイスをいただきました。

これらの活動の成果から、昨年１月には仙台中央警察署から表彰いただくことになり、私も贈呈式に参加させていただきました。取り組みを評価していただき、とても嬉しく思っています。活動を行うことの励みにもなりました。




最後に課題と解決に向けた取組方策ですが、やはり活動の継続性を担保するためのチームメンバーの確保が挙げられます。

この課題に対しては、ボランティア活動を支援いただいている教職員の協力のもとに、授業中などで「このようなボランティアを募集しているよ」という呼びかけを行ってもらっています。その他、本学総合ボランティアステーションに登録している学生にもメールを活用して広く呼びかけています。一般の学生への呼びかけとなると単発の活動になるかもしれませんが、まずは第一歩ということで広く呼びかけを行うようにしています。




次に、メンバー間の予定調整です。人数が多くなればなるほど難しくなる問題ですが、私たちも様々な学部・学科・学年の学生たちで組織しているので、空きコマなどが異なります。

そういう中で活動に参加できる学生やミーティングの日程調整などが課題でした。これについては、全員が LINE を使っていたこともあり、その機能を活用し日程等を調整することで、この日に何名が参加できるのかをすぐに把握できるようになりました。

最後は、活動の学内外への広報活動です。私たちも SNS を持っていますが、どうしても活動中の写真などを撮ってアップしたりすることが抜けてしまいます。そういう課題を抱える中で、同じ学生で総合ボランティアステーションの運営を担う皆さんが、活動中の様子を撮影したり、テキストを作成したり、アップしてくれるようになり、私たちの活動の様子が広く周知できるようになりました。

これが総合ボランティアステーション運営チームの Instagram と X の様子です。それぞれ SNS 画面の右下に QR コードを掲載していますので、フォローしていただけると嬉しいです。

また、この SNS には私たち防犯ボランティア ING の情報だけでなく、他にボランティア活動を行っている学生の様子も掲載されていますので併せてご覧いただければと思います。

これで私たち東北学院大学防犯ボランティア ING の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

## 講　評

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

ご発表ありがとうございました。質問をしたいのですが、ING さんはどのくらいの人数がいるのですかね？

**【発表者（吉村氏）】**

現在参加しているのは 10 名以内ぐらいです。ING に入っているのが 10 名以内で、あとは単発の「1day」という感じで参加してくれる学生もいるので、参加するときはもう少し多いです。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

なるほど、中心になっている学生が 10 人ぐらいいて、その日だけ参加してくれるという友達をいっぱい来るようなシステムになっているということですね。わかりました。

荒町地区の団体さん、僕よく知っているので、そういう質問はないのですが、先ほどおっしゃっていた異業種交流会というのは、大学生が中心にやっているのですか？

**【東北学院大学職員（相川氏）】**

その件については私の方から。東北学院大学の職員をやっております相川と申します。

異業種交流会は、ついこの間まで関係する企業さんが移転してしまって、ちょっと今いなくなってしまったのですが、基本的には近隣にある企業さんが中心となって組織して、「自分たちの職場の周りをきれいにしよう」という中で、私たちもお誘いを受けました。せっかく防犯ボランティア ING があるのですから、それであれば「ながら見守り」をしながらそれに参加をして、さらに異業種交流をして、その中でまた課題とか、「私、こういう活動をしているので皆さんもどうですか」みたいなかたちで広めていく、という取り組みとして参加させていただきました。

**【東北大学大学院 荒井 崇史 先生】**

なるほど。今、防犯 CSR という、企業さんを巻き込んでやるというのは結構重要なポイントで、防犯ボランティア団体をされている方も、その地域の主要な企業に狙いを定めて声をかけると、割と協力してくれるかもしれません。人を出してくれるかもしれないし、お金を出してくれるかもしれない。その地域に貢献するというのは企業の側でも望んでいることだと思うので、そういったところに声をかけるというのは、今回のこのご発表もそうですけど、重要なことかなと思います。

もう一つ、地域のボランティア団体が、例えば学生の協力を得たいと考えた場合、どういうふうに声をかけたり、アプローチしたら一緒にやってもらえますか？という質問をよくされます。ここにいる皆さんも聞きたいのではないかなと思うので、教えていただければと思います。

**【東北学院大学職員（相川氏）】**

大学というのも、昔ながらの教育と研究だけではなくて、やはり地域との結びつきをすごく大切にしていますので、大体の大学では地域連携の窓口を持っています。東北学院大学では、私たちがいる地域連携センターという部署がそれに当たりますので、そういうところにお声がけをして

いただいて、「こういうところでボランティアを募集したいんだ」という話をしていただくのが一番かなと思います。

大学もだいぶ敷居が低くなったと、最近思っています。ただ、ボランティアを出すときに、いろいろ各大学の中で条件というものがございますので、1回話に行ってすぐに募集を受け付けていただけるということではないかもしれませんが、何回か話をしていく中で、継続して募集をかけていただけるものかと思います。

大学としても、なかなか自分たちから「こういう活動をしたい」と言ってもできないところもあるので、逆にお声がけいただけると、「私たちも実はしたかったんです」ということもあり得ますので、ぜひ第一歩を踏み出して、近くにある大学や専門学校などにお声がけしていただければな、というふうに思っております。